

(様式第 10)

慶病企第 2019-4 号
令和元年 10

厚生労働大臣

殿

開設者名 慶應義塾
理事長 長谷山

慶應義塾大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒108-8345 東京都港区三田二丁目15番45号
氏 名	慶應義塾

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

慶應義塾大学病院

3 所在の場所

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35	電話(03)3353-1211
-----------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科		
②消化器内科		
③循環器内科		
④腎臓内科		
⑤神経内科		
⑥血液内科		
⑦内分泌内科		
⑧代謝内科		
⑨感染症内科		
10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		
⑪リウマチ科		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科		
診療実績		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科		
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腫瘍内科 2内視鏡内科 3移植外科 4腫瘍外科 5形成外科 6頭頸部外科 7リハビリテーション科 8病理診断科 9臨床検査科 10漢方内科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
16床	床	床	床	944床	960床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	705人	12.6625人	717.6人	看護補助者	79人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	26人	0.75人	26.7人	理学療法士	14人	臨床検査技師	166人
薬 剤 師	110人	3.3人	113.3人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	17人	その他	0人
助 産 師	57人	0人	57人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1,041人	8.0人	1,049人	臨床工学士	28人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	2人	0人	2人	栄 養 士	0人	その他の技術員	67人
歯科衛生士	4人	0人	4人	歯科技工士	3人	事務職員	248人
管理栄養士	12人	0人	12人	診療放射線技師	91人	その他の職員	2人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	81人	眼 科 専 門 医	19人
外 科 専 門 医	52人	耳鼻咽喉科専門医	16人
精神科専門医	17人	放射線科専門医	44人
小児科専門医	30人	脳神経外科専門医	17人
皮膚科専門医	15人	整形外科専門医	32人
泌尿器科専門医	14人	麻酔科専門医	25人
産婦人科専門医	34人	救急科専門医	10人
		合 計	406人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (北川 雄光) 任命年月日 平成 29年 8月 1日

<ul style="list-style-type: none"> ・一般消化器外科 診療科部長として科内の安全管理 平成19年4月～平成29年7月 ・医療安全管理委員会への参加 平成28年9月～平成29年7月 (中央手術部長として委員参加) 平成29年8月～現在 (病院長としてオブザーバー参加) ・病院執行部として病院全体の安全管理 平成23年10月～平成29年7月 (副病院長として管理補佐) ・病院長として全体管理 平成29年8月～現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	754.7人	5.5人	760.2人
1日当たり平均外来患者数	3,006.0人	175.1人	3,181.1人
1日当たり平均調剤数			5,447.2剤
必要医師数			245人
必要歯科医師数			10人
必要薬剤師数			69人
必要(准)看護師数			488人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	390 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	20床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	361 m ² 台	病床数	31床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	38 m ²			
化学検査室	486 m ²		(主な設備) 分析器など			
細菌検査室	223 m ²		(主な設備) 分析器など			
病理検査室	378 m ²		(主な設備) 分析器など			
病理解剖室	187 m ²		(主な設備) 解剖設備など			
研究室	29,186m ²		(主な設備) ドラフトチャンバーなど			
講義室	1,453m ²		室数	7室	収容定員	1,391人
図書室	1,754m ²		室数	2室	蔵書数	427,900冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	81.8%	逆紹介率	40.4 %
算出根拠	A：紹介患者の数			25,886人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			15,045人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			4,604人
	D：初診の患者の数			37,260人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山口 徹	虎ノ門病院名 誉院長	○	虎ノ門病院の元病院 長であり、病院管理 者として医療安全に 携わり、幅広い知識 と豊富な実務経験を 有する	有・無	1
市村 尚子	公益社団法人 日本看護協会 神戸研修セン ター長		日本看護協会神戸研 修センター長であ り、看護管理者とし て医療安全について 十分な知識と実務経 験を有する	有・無	1
中谷 比呂樹	慶應義塾大学 グローバルリ サーチインス ティテュート 特任教授		厚生労働省医系技官 として医療行政に従 事し、WHOでは感染症 対策部門を牽引した 実務経験を有する	有・無	1
宮沢 忠彦	関谷・宗像法律 事務所弁護士		長年法曹界に身をお き、法律についての 豊富な専門知識と実 務経験を有する	有・無	1
山口 育子	認定NPO法人さ さえあい医療 人権センター COML 理事長他		医療を受ける者の立 場を代表する患者支 援団体の理事長とし て、医療安全につい ての知識を有する	有・無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	病院ウェブサイト

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法	0人
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	1人
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	2人
ゾレドロン酸 γ δ T細胞を用いた免疫療法	4人
ヒドロキシクロロキン療法	33人
水素ガス吸入療法	3人
テモゾロミド用量強化療法	0人
トラスツズマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法	7人
反復経頭蓋磁気刺激療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 対象となる患者さんには、初回手術の時点で抗がん剤を腹腔内に投与するための「腹腔リザーバーポート」を腹部の皮膚の下に埋め込みます。手術後の化学療法としては標準的なパクリタキセル＋カルボプラチン併用療法(TC療法)を行います。カルボプラチンは通常の静脈内投与ではなく、腹腔内投与にて行います。3週間を1サイクルとして、この治療法を6～8サイクル繰り返します。			
医療技術名	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 clinical T1 ないし T2、NO胃癌症例に対して、術中センチネルリンパ節検索を行い、かつ胃癌治療ガイドラインに準拠し、1群+ α ないし β のリンパ節郭清を施行する。術中転移診断によりセンチネルリンパ節に転移のない症例はこれ以上の郭清を施行しないが、転移のある症例に対しては2群までのリンパ節郭清を施行する。センチネルリンパ節の検索方法は、色素(Indocyanin green, Indigocarmine)と radioisotope (99m-Tc-Technetium labeled tin-colloid) による併用法で行い、いずれも内視鏡下に腫瘍原発巣直下に注入する。radioisotopeの取り扱い、日本核医学会のセンチネルリンパ節の核医学的検出法ガイドラインに準じて当院放射線科医管理下で行われている。センチネルリンパ節に集積したradioisotopeは、シンチグラフィとポータブル・ガンマプローブを用いて画像描出、RI計量を行っている。同定されたセンチネルリンパ節は摘出された後、術中迅速病理診断で転移の有無を検索する。			
医療技術名	放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 初発の中樞神経系原発悪性リンパ腫の患者様に対して、大量メトトレキサート療法と放射線治療を行う治療法(標準治療)と、大量メトトレキサート療法と放射線治療に加えテモゾロミドを併用する治療法(試験治療)を比較する医師主導臨床試験で、JCOG(ジェイコグ)という多施設共同臨床試験グループにより行われます(http://www.jcog.jp/) (慶應義塾大学病院は共同研究機関) この臨床試験への参加に同意いただいた場合、担当医が臨床試験への登録を行い、治療が始まります。「大量メトトレキサート療法＋放射線治療」か、「大量メトトレキサート療法＋放射線治療＋テモゾロミド」のどちらの治療法を受けていただくかは、「ランダム」に(五分五分の確率で)決まります。			
医療技術名	ゾレドロン酸 γ δ T細胞を用いた免疫療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 今回の臨床試験は東京大学病院との共同試験で、試験に用いる γ δ T細胞の調整は東京大学病院で行い、患者さんへの投与は慶應義塾大学病院で行います。東京大学病院で患者さん自身の血液から成分採血で末梢血単核球(PBMC)を採取して凍結保存します。採取したPBMCを順次解凍し、そこに含まれる γ δ T細胞を無菌培養室で2週間培養し、数を増やし活性化させてから、慶應義塾大学病院でもう一度患者さんの静脈内に投与(点滴)して体に戻します。 γ δ T細胞の投与は2週間毎に6回実施し、効果が確認された患者さんではさらに治療を継続します。			
医療技術名	テモゾロミド用量強化療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 初回再発あるいは増悪の膠芽腫の患者様に対して、ベバシズマブ療法(標準治療)と、用量を強化したテモゾロミド内服療法の再発後にベバシズマブ投与を行う逐次併用療法(試験治療:ベバシズマブ療法の前に、用量強化テモゾロミド療法を行う)を比較します。本臨床試験は、日本臨床腫瘍研究グループ(JGOG: http://www.jcog.jp/)が行う多施設共同臨床試験(JGOG1308C試験)であり、慶應義塾大学病院はその共同研究機関です。「ベバシズマブ療法」か「用量強化テモゾロミド療法＋その後再発時のベバシズマブ療法」かの治療群の選択は「ランダム」に(五分五分の確率で)決まります。試験治療群に割り付けられた場合に、本先進医療の適用となります。			
医療技術名	トラスツズマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 本先進医療は、国家戦略特区の枠組みで計画され、厚労省より承認されました。切除不能な進行期乳房外パジェット病に対して、2種類の抗がん剤(トラスツズマブ、ドセタキセル)を点滴投与し、その効果と安全性を評価します。いずれも乳癌における治療と同様に21日を1クールとし、3クール実施した後に効果を評価します。13名の患者さんが参加可能です。			
医療技術名	腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 子宮体癌に対する治療は手術療法が主治療であり、現在本邦で一般的に行われている手術療法は、開腹による子宮全摘術、両側付属器摘出術、骨盤および傍大動脈リンパ節切除であります。一方海外では早期子宮体癌に対して腹腔鏡下で上記手術を行ったという報告が1992年にあり、それ以来子宮体癌に対して積極的に子宮全摘術や傍大動脈リンパ節郭清までを含む術式が腹腔鏡で行われています。日本では子宮体癌に対する腹腔鏡下手術は2014年4月から保険収載となっておりますが、進行期はIA期まで、リンパ節郭清も骨盤内リンパ節郭清のみの施行が認められており、現時点では腹腔鏡下に傍大動脈リンパ節郭清を行うことは保険収載されておらず、傍大動脈リンパ節郭清が必要となった場合やII期の場合には開腹術で行わなければなりません。開腹による傍大動脈リンパ節郭清の創部は最大でみぞおちから恥骨上(股上)まで(下記図をご参照下さい)の広範囲に渡り、術後の痛み、傷の大きさ、術後腸閉塞が問題となっておりますが、腹腔鏡下で行う本術式は、それらのリスクを軽減することができます。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病		49
2	筋萎縮性側索硬化症	31	57	特発性拡張型心筋症		43
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症		36
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症		0
5	進行性核上性麻痺	8	60	再生不良性貧血		34
6	パーキンソン病	160	61	自己免疫性溶血性貧血		5
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症		6
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病		65
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病		0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群		6
11	重症筋無力症	135	66	IgA腎症		22
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎		20
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	81	68	黄色靱帯骨化症		7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	16	69	後縦靱帯骨化症		36
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症		3
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症		22
17	多系統萎縮症	20	72	下垂体性ADH分泌異常症		10
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	19	73	下垂体性TSH分泌亢進症		1
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症		5
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病		1
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症		0
22	もやもや病	15	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		9
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症		43
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症		0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症		13
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症		0
28	全身性アミロイドーシス	8	83	アジソン病		0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス		26
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎		25
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症		66
32	自己食空腔性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症		1
33	シュワルツ・マンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症		133
34	神経線維腫症	30	89	リンパ脈管筋腫症		1
35	天疱瘡	80	90	網膜色素変性症		24
36	表皮水疱症	9	91	バッド・キアリ症候群		4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	92	特発性門脈圧亢進症		1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変		39
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎		18
40	高安動脈炎	33	95	自己免疫性肝炎		25
41	巨細胞性動脈炎	6	96	クローン病		358
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎		698
43	顕微鏡的多発血管炎	10	98	好酸球性消化管疾患		4
44	多発血管炎性肉芽腫症	20	99	慢性特発性偽性腸閉塞症		0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	12	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症		0
46	悪性関節リウマチ	18	101	腸管神経節細胞減少症		1
47	バージャー病	5	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群		0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	6	103	CFC症候群		1
49	全身性エリテマトーデス	238	104	コストロ症候群		0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	72	105	チャージ症候群		0
51	全身性強皮症	69	106	クリオピリン関連周期熱症候群		0
52	混合性結合組織病	32	107	全身型若年性特発性関節炎		4
53	シェーグレン症候群	79	108	TNF受容体関連周期性症候群		0
54	成人スチル病	37	109	非典型溶血性尿毒症症候群		1
55	再発性多発軟骨炎	7	110	ブラウ症候群		0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	30
113	筋ジストロフィー	8	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	3
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	3	167	マルファン症候群	15
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	7
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	0
128	ピックアスタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	3
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスモンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	3
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	11	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	6	210	単心室症	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	4	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	15	270	慢性再発性多発性骨髄炎	2
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	21
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	8	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーム病	1
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	3
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	5
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	1
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	2
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	16
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	20
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	13

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・特定集中治療室管理料2
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・特定機能病院入院基本料	・総合周産期特定集中治療室管理料
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料1
・診療録管理体制加算2	・医師事務作業補助体制加算1
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上)	・
・看護職員夜間配置加算(12対1 配置加算1)	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・データ提出加算2(200床以上)	・
・入退院支援加算2	・
・認知症ケア加算	・
・精神疾患診療体制加算	・
・精神科急性期医師配置加算	・
・地域歯科診療支援病院入院加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・光トポグラフィー
・移植後患者指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・院内トリアージ実施料	・コンタクトレンズ検査料
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ニコチン依存症管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携計画策定料	・センチネルリンパ節生検(片側)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算1
・薬剤管理指導料	・画像診断管理加算2
・医療機器安全管理料1	・遠隔画像診断
・医療機器安全管理料2	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・CT撮影及びMRI撮影
・歯科治療総合医療管理料	・冠動脈CT撮影加算
・持続血糖測定器加算	・心臓MRI撮影加算
・遺伝学的検査	・乳房MRI撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・検体検査管理加算(I)	・外来化学療法加算1
・検体検査管理加算(IV)	・無菌製剤処理料
・国際標準検査管理加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・遺伝カウンセリング加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・心臓カテーテル法による諸検査の血液内視鏡検査加算	・運動器リハビリテーション料(I)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・がん患者リハビリテーション料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・リンパ浮腫複合的治療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・救急患者精神科継続支援料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除術)
・認知療法・認知行動療法	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・経カテーテル大動脈弁置換術
・医療保護入院等診療料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・手術用顕微鏡加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・CAD/CAM冠	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・歯科技工加算	・補助人工心臓
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・体外衝撃波胆石破碎術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・生体部分肝移植術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・同種死体肝移植術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・体外衝撃波膵石破碎術
・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・羊膜移植術	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・網膜再建術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨補聴器交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・同種死体腎移植術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・生体腎移植術	・口腔病理診断管理加算
・膀胱水圧拡張術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・乳腺炎重症化予防ケア・指導料
・人工尿道括約筋植込・置換術	・救急搬送看護体制加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・療養・就労両立支援指導料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・排尿自立指導料
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査
・輸血管管理料 I	・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・精密触覚機能検査
・歯周組織再生誘導手術	・人工腎臓
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・歯根端切除手術の注3	・皮膚移植術(死体)
・麻酔管理料(I)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・麻酔管理料(II)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・放射線治療専任加算	・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
・外来放射線治療加算	・経皮的僧帽弁クリップ術
・高エネルギー放射線治療	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・強度変調放射線治療(IMRT)	・腹腔鏡下痔腫瘍摘出術
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・生体部分小腸移植術
・体外照射呼吸性移動対策加算	・同種死体小腸移植術
・定位放射線治療	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・コーディネート体制充実加算
・画像誘導密封小線源治療加算	・1回線量増加加算
・病理診断管理加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・マルチプレックス遺伝子パネル検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門 約年80回 臨床検査部門 約週 1回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 49 例 / 剖検率 12.6 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
クローン病を対象とした薬効予測マーカーの探索	水野慎大	内科学(消化器)	598,000	補委○	日本医療研究開発機構
産医連携拠点による新たな認知症の創薬標的創出	岡野栄之	生理学	318,180,934	補委○	日本医療研究開発機構
ゲノム医療従事者の育成プログラム開発	西原広史	医学部	3,640,000	補委○	日本医療研究開発機構
バイオバンク及びゲノム医療に係る検査の品質・精度の国際的基準構築と実施、及びバイオバンクの連携体制構築に関する研究	増井徹	医学部臨床遺伝学センター	20,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
認定再生医療等委員会における審査の質向上に向けた研究	許斐健二	眼科学	520,000	補委○	日本医療研究開発機構
再生医療等臨床研究を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの実現」(iPS細胞を含む幹細胞の臨床研究応用の技術支援と国際的な情報の発信と収集)	岡野栄之	生理学	4,615,000	補委○	日本医療研究開発機構
産学官連携を加速する肺高血圧症患者レジストリJapan PH Registryの活用研究	宮田裕章	医療政策・管理学	1,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
造血細胞移植レジストリを基盤とした、遺伝子改変T細胞療法データ収集・管理体制及び臨床研究プラットフォームの構築	岡本真一郎	内科学(血液)	0	補委○	日本医療研究開発機構
現場の負担を抑えたセンシングでストレスや幸福度を定量し健康経営オフィスを実現するシステムの開発	岸本泰士郎	精神・神経科学	4,940,000	補委○	日本医療研究開発機構
小児及び難病等アンメットニーズ医薬品開発におけるファーマコメトリクスの利活用に関する研究	谷川原祐介	臨床薬理学	500,000	補委○	日本医療研究開発機構
次世代シーケンサーを用いた次世代体外診断用医薬品等の評価手法の在り方に関する研究	小崎健次郎	医学部臨床遺伝学センター	14,570,000	補委○	日本医療研究開発機構
腸管上皮再生作用を特長とする『インジゴ潰瘍性大腸炎カプセル』の治験開始に向けた開発研究	金井隆典	内科学(消化器)	104,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
PEG化スルファサラジンを用いたがん幹細胞標的治療の開発	佐谷秀行	先端医科学研究所(遺伝子)	104,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
薬剤抵抗性の切除不能膀胱癌に対する核酸医薬STNM01の超音波内視鏡ガイド投与の第1/IIa相臨床試験	矢作直久	医学部腫瘍センター(低侵襲療法研究開発部門)	88,045,495	補委○	日本医療研究開発機構
眼科医療政策の在り方評価と対策案の策定	宮田裕章	医療政策・管理学	0	補委○	日本医療研究開発機構
画像診断ナショナルデータベース実現のための開発研究	陣崎雅弘	放射線科学(診断)	19,370,000	補委○	日本医療研究開発機構
人工知能の利活用を見据えた超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築基盤整備に関する研究	宮田裕章	医療政策・管理学	2,730,000	補委○	日本医療研究開発機構
皮膚疾患画像ナショナルデータベースの構築とAI活用診断支援システムの開発	齋藤昌孝	皮膚科学	12,610,000	補委○	日本医療研究開発機構
皮膚疾患画像ナショナルデータベースの構築とAI活用診断支援システムの開発	宮田裕章	医療政策・管理学	1,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
登録情報のアーカイブ化、匿名加工による研究利用可能なデータベースの整備	宮田裕章	医療政策・管理学	0	補委○	日本医療研究開発機構
次世代眼科医療を目指す、ICT/人工知能を活用した画像等データベースの基盤構築	宮田裕章	医療政策・管理学	0	補委○	日本医療研究開発機構
慶應義塾病院における利活用基盤への接続に関する研究および医療職種間におけるタスク・シフティング等についての研究	宮田裕章	医療政策・管理学	35,000,000	補委○	日本医療研究開発機構

医療の質向上を目的とした臨床データベースの共通プラットフォームの構築	宮田裕章	医療政策・管理学	9,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
薬物乱用頭痛における抑肝散の有効性の検討	中原仁	内科学(神経)	300,001	補委○	日本医療研究開発機構
難治性リンパ管異常に対するシロリムス療法確立のための研究	黒田達夫	外科学(小児)	3,084,900	補委○	日本医療研究開発機構
先進医療Bの推進	副島研造	医学部臨床研究推進センター	7,800,000	補委○	日本医療研究開発機構
進行期乳房外パジェット病に対するトラスツブマブ、ドセタキセル併用療法の第II相臨床試験	船越建	皮膚科学	20,999,999	補委○	日本医療研究開発機構
ゲノム医療実現推進のためのバイオバンク利活用促進に向けたバイオバンク・ネットワーク構築と運用支援に関する研究開発	西原広史	医学部	7,150,000	補委○	日本医療研究開発機構
認知症臨床ゲノム情報データベース構築に関する開発研究	三村将	精神・神経科学	12,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
国内完結型がんクリニカルシーケンスの社会実装と統合データベース構築およびゲノム医療人材育成に関する研究開発	北川雄光	外科学(一般・消化器)	7,111,000	補委○	日本医療研究開発機構
VUSのハイスループット機能スクリーニング	佐藤俊朗	内科学(消化器)	500,000	補委○	日本医療研究開発機構
真に個別患者の診療に役立ち領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの創成	小崎健次郎	医学部臨床遺伝学センター	224,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
希少・難治性疾患領域における臨床ゲノムデータストレージの整備に関する研究	小崎健次郎	医学部臨床遺伝学センター	150,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理	加部泰明	医化学	2,200,000	補委○	日本医療研究開発機構
Biological signatures of cardiovascular, musculoskeletal and cognitive ageing in the very old(心血管系、骨格筋系、および認知機能の老化に関わる分子バイオマーカーの国際共同開発)	新井康通	医学部百寿総合研究センター	19,110,000	補委○	日本医療研究開発機構
安全なマイクロサージェリーを提供する小型3Dビデオ蛍光顕微鏡の事業化・海外展開	小林英司	ブリヂストン臓器再生医学寄附講座	4,320,000	補委○	日本医療研究開発機構
手術の完全自動録画を実現するマルチカメラ搭載型無影灯の研究開発	梶田大樹	形成外科学	24,439,051	補委○	日本医療研究開発機構
熟練微細手技を人工再現するμm超精密手術システムの開発	筋生田整治	歯科・口腔外科学	47,649,999	補委○	日本医療研究開発機構
病理診断プロセス暗黙知を“見える化”し、治療法選択のための医療機器開発に資する病病情報テストベッド構築	坂元亨宇	病理学	54,546,800	補委○	日本医療研究開発機構
磁気ナノ粒子によるセンチネルリンパ節の特定とがん転移の迅速診断法の開発	北川雄光	外科学(一般・消化器)	15,281,314	補委○	日本医療研究開発機構
表情・音声・日常生活活動の定量化から精神症状の客観的評価をリアルタイムで届けるデバイスの開発	岸本泰士郎	精神・神経科学	37,027,071	補委○	日本医療研究開発機構
立体造形による機能的な生体組織製造技術の開発/細胞を用いた機能的な立体臓器作製技術の研究開発/細胞シート工学を基盤とした革新的立体臓器製造技術の開発	小林英司	ブリヂストン臓器再生医学寄附講座	5,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
未来医療を実現する先端医療機器・システムの研究開発/先端医療機器の開発/麻痺した運動や知覚の機能を回復する医療機器・システムの研究開発	里宇明元	リハビリテーション医学	190,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
未来医療を実現する先端医療機器・システムの研究開発 先端医療機器の開発 高い安全性と更なる低侵襲化および高難度治療を可能にする軟性内視鏡手術システムの研究開発	北川雄光	外科学(一般・消化器)	26,500,001	補委○	日本医療研究開発機構
脳卒中後上肢麻痺に対する脳波-BMIリハビリテーションシステムの医師主導治療	里宇明元	リハビリテーション医学	54,960,275	補委○	日本医療研究開発機構
老化研究推進・支援拠点	杉浦悠毅	医化学	32,500,000	補委○	日本医療研究開発機構

老化機構・制御研究拠点	塩見春彦	分子生物学	39,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
個体・臓器老化研究拠点	佐谷秀行	先端医学研究所(遺伝子)	13,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
個体・臓器老化研究拠点	佐藤俊朗	内科学(消化器)	25,740,000	補委○	日本医療研究開発機構
卵胞内エクソソームに注目した卵子老化の研究	浜谷敏生	産婦人科学(産科)	1,100,000	補委○	日本医療研究開発機構
胚細胞の遺伝子解析に基づく新時代の生殖医療の開発	末岡浩	産婦人科学(産科)	1,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
天疱瘡におけるiTreg細胞療法の検証	天谷雅行	皮膚科学	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
腸内代謝物に基づく宿主エネルギー恒常性維持への腸内細菌叢関与の解明と生活習慣病予防・治療基盤の確立	伊藤裕	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	26,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
腸内細菌叢によるT細胞の老化とがん化促進メカニズムの解明	中司寛子	微生物学・免疫学	18,005,000	補委○	日本医療研究開発機構
D-アミノ酸を介した細菌叢-宿主相互作用による粘膜免疫構築機構と免疫疾患における病態生理学的意義の解明	笹部潤平	薬理学	14,959,360	補委○	日本医療研究開発機構
腸の再生における炎症記憶メカニズムの解明	谷口浩二	微生物学・免疫学	1,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
ヒト腸内細菌種による免疫細胞誘導機構とがん免疫への寄与の解明	田之上大	微生物学・免疫学	21,689,382	補委○	日本医療研究開発機構
肺高血圧症の病態形成に関わる機能性脂質の質的量的制御による新たな治療戦略の創出	遠藤仁	第一三共心血管炎症学寄附講座	12,220,000	補委○	日本医療研究開発機構
新規T細胞サブセットを規定するコレステロール代謝酵素の機能解析と疾患制御への応用	高橋勇人	皮膚科学	14,733,420	補委○	日本医療研究開発機構
腸内細菌株カクテルを用いた新規医薬品の創出(機能的に優れた腸内細菌株カクテルの同定分離)	本田賢也	微生物学・免疫学	209,209,000	補委○	日本医療研究開発機構
DOCKファミリー分子の生体機能と動作原理の理解に基づく革新的医薬品の創出	杉浦悠毅	医化学	13,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
新しい4次元モデルシステムを用いた腸管線維化疾患の病態解明	佐藤俊朗	内科学(消化器)	76,630,001	補委○	日本医療研究開発機構
T細胞の老化、疲弊による生体機能不全とその解除方法の開発	吉村昭彦	微生物学・免疫学	13,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
皮膚細菌叢と宿主の相互作用理解に基づく炎症性疾患制御法の開発	天谷雅行	皮膚科学	31,200,000	補委○	日本医療研究開発機構
腸内細菌-上皮細胞相互作用から読み解く疾患発症メカニズムの解明	佐々木伸雄	内科学(消化器)	26,650,000	補委○	日本医療研究開発機構
腸内細菌-上皮細胞相互作用から読み解く疾患発症メカニズムの解明	金井隆典	内科学(消化器)	33,800,000	補委○	日本医療研究開発機構
腸内細菌叢制御による代謝・免疫・脳異常惹起メカニズムの解明と治療応用	杉浦悠毅	医化学	11,800,000	補委○	日本医療研究開発機構
代謝システム制御分子の系統的探索による治療戦略創出と創薬展開	加部泰明	医化学	38,090,000	補委○	日本医療研究開発機構
T細胞のエピジェネティック改変による免疫疾患制御	吉村昭彦	微生物学・免疫学	57,850,000	補委○	日本医療研究開発機構
組織学的に診断された『アルコール性』でない脂肪肝炎(non-ASH steatohepatitis)のregistry研究における病理学的検討を中心とした研究	坂元亨宇	病理学	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
新規治療薬による移植後C型肝炎治療	北川雄光	外科学(一般・消化器)	200,000	補委○	日本医療研究開発機構

NASH肝がんのリポド・ゲノミクス研究に基づく個別化医療の開発(NASH肝がんのエピゲノム解析、エピゲノム修飾検出を用いた肝がんリスク評価系の開発)	金井弥栄	病理学	3,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
NASH肝がんのリポド・ゲノミクス研究に基づく個別化医療の開発(NASH肝がんにおけるマイクロバイオームと肝臓内免疫細胞の連関)	中本伸宏	内科学(消化器)	3,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	加藤真吾	微生物学・免疫学	500,000	補委○	日本医療研究開発機構
非結核性抗酸菌症の発生動向把握及び診断・治療法の開発に向けた研究	長谷川直樹	医学部感染制御センター	8,850,000	補委○	日本医療研究開発機構
培養細胞感染系が確立されていない病原体の新たな感染複製系等の開発とそれを用いた診断・治療・予防法の開発に向けた研究	佐藤俊朗	内科学(消化器)	1,400,000	補委○	日本医療研究開発機構
病原体と宿主のエネルギー代謝系の相互作用解析—アフリカトパノソーマによる中枢神経感染をモデルとして	杉浦悠毅	医化学	3,660,000	補委○	日本医療研究開発機構
緩和ケアのプロセス指標およびアウトカム指標のリスク群間差の検討	河野隆志	重症心不全治療学寄附講座	0	補委○	日本医療研究開発機構
肥満症に対する効果的な治療戦略と健康障害の改善に資する減量数値目標に関する統計解析	佐藤泰憲	衛生学公衆衛生学	0	補委○	日本医療研究開発機構
慢性心不全患者に対する多職種介入を伴う外来・在宅心臓リハビリテーションの臨床的効果と医療経済的効果を調べる研究	宮田裕章	医療政策・管理学	312,000	補委○	日本医療研究開発機構
心房細動発症リスクと重症化リスクの層別化指標の確立を目的とした大規模コホート・レジストリー共同研究	宮田裕章	医療政策・管理学	650,000	補委○	日本医療研究開発機構
心房細動発症リスクと重症化リスクの層別化指標の確立を目的とした大規模コホート・レジストリー共同研究	福田恵一	内科学(循環器)	650,000	補委○	日本医療研究開発機構
心房細動発症リスクと重症化リスクの層別化指標の確立を目的とした大規模コホート・レジストリー共同研究	岡村智教	衛生学公衆衛生学	650,000	補委○	日本医療研究開発機構
骨格筋ミトコンドリアとアミノ酸代謝に着目したサルコペニア先制医療の開発	伊藤裕	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
DNAメチル化・トランスクリプトーム・血漿メタボロームの3層オミクス解析を用いた電気加熱式たばこの喫煙・受動喫煙の健康影響に関する疫学研究	武林亨	衛生学公衆衛生学	15,288,000	補委○	日本医療研究開発機構
アトピー性皮膚炎の個別化医療・予測医療実現に向けた、皮膚トランスクリプトーム解析研究(皮膚組織検体採取と付随する臨床データ収集(成人、小児))	天谷雅行	皮膚科学	2,700,000	補委○	日本医療研究開発機構
医療の質の向上及び効率化に向けた、肝移植手術におけるリスクモデルの作成とエビデンスの創設	宮田裕章	医療政策・管理学	0	補委○	日本医療研究開発機構
臨床皮膚検体の採取とバリア・神経イメージング解析	天谷雅行	皮膚科学	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
アレルギーマーチを阻止する乳児アトピー性皮膚炎早期介入研究	高橋孝雄	小児科学	0	補委○	日本医療研究開発機構
アレルギー性気管支肺真菌症の新・診断基準の検証と新規治療開発	福永興吉	内科学(呼吸器)	394,368	補委○	日本医療研究開発機構
遺伝子発現制御機構に基づく自己免疫疾患の患者層別化と個別化医療基盤の確立(各種自己免疫疾患における検体および臨床データの回収)	竹内勤	常任理事	403,000	補委○	日本医療研究開発機構
既存薬ライブラリからの気管支喘息治療薬の開発	福永興吉	内科学(呼吸器)	1,362,400	補委○	日本医療研究開発機構
同種造血幹細胞移植患者における、ステロイド抵抗性/依存性腸管急性移植片対宿主病(GVHD)に対する便微生物移植(fecal microbiota transplantation)の有効性を検討する第Ⅱ相多施設共同研究	竹下梢	微生物学・免疫学	455,000	補委○	日本医療研究開発機構
本邦における同種造血幹細胞移植の最適化を目指した移植医療体制の確立と国際的視点からのHarmonizationに関する研究	岡本真一郎	内科学(血液)	5,069,987	補委○	日本医療研究開発機構
アスピリン喘息/NSAIDs 不耐症の病因・機序の最終的な解明とその治療薬の開発に向けての研究	佐々木貴史	医学部百寿総合研究センター	1,950,000	補委○	日本医療研究開発機構
皮膚・腸内微生物叢解析によるアトピー性皮膚炎発症機序の解明	天谷雅行	皮膚科学	29,900,000	補委○	日本医療研究開発機構

慢性血栓塞栓性肺高血圧症に関する多施設共同レジストリ研究	福田恵一	内科学(循環器)	390,000	補委○	日本医療研究開発機構
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	小川郁	耳鼻咽喉科学	325,000	補委○	日本医療研究開発機構
早老症ウェルナー症候群の症例登録システムの構築・運営に基づくデータ集積とエビデンスの創生	佐藤泰憲	衛生学公衆衛生学	0	補委○	日本医療研究開発機構
特発性血栓症患者のゲノム情報を用いた層別化による病態解明研究	村田満	臨床検査医学	0	補委○	日本医療研究開発機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)に対するballon angioplasty(BPA)の有効性と安全性に関する多施設レジストリー研究	福田恵一	内科学(循環器)	100,001	補委○	日本医療研究開発機構
iPS細胞技術を用いた孤発性ALS症例の再定義による孤発性病態機構の顕在化	岡野栄之	生理学	3,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
IgA腎症予後分類のブラッシュアップのための前向きコホート研究の推進とハイリスク患者の透析移行を阻止する治療法の開発	橋口明典	病理学	1,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
難治性リンパ管疾患レジストリを活用したリンパ管疾患鑑別診断法の確立及び最適治療戦略の導出	黒田達夫	外科学(小児)	520,000	補委○	日本医療研究開発機構
MIRAGE症候群の治療法開発に向けた基礎的研究	長谷川奉延	小児科学	1,499,999	補委○	日本医療研究開発機構
拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録研究	福田恵一	内科学(循環器)	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
SJS/TEN眼後遺症の予後改善に向けた戦略的研究	小川葉子	眼科学	1,040,000	補委○	日本医療研究開発機構
性分化疾患・性成熟疾患の診療ガイドライン作成に向けたエビデンス創出	長谷川奉延	小児科学	650,000	補委○	日本医療研究開発機構
二次リンパ組織の形態及び機能形成に関する免疫学的研究	北郷実	外科学(一般・消化器)	514,800	補委○	日本医療研究開発機構
重症型原発性アルドステロン症の診療の質向上に資するエビデンス構築	長谷川奉延	小児科学	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出	伊藤裕	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	520,000	補委○	日本医療研究開発機構
手術治療の中長期成績調査	松本守雄	整形外科	1,040,000	補委○	日本医療研究開発機構
CDC42阻害剤による武内・小崎症候群の治療法の開発	武内俊樹	小児科学	26,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
新規原因遺伝子を基盤とした心筋症の治療法の開発	林丈晴	難治性循環器疾患病態学寄附講座	26,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
エピゲノム異常から見た小児奇形症候群の病態の基本原理解明及び革新的治療法開発	岡野栄之	生理学	15,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
iPS細胞創薬に基づいた新規筋萎縮性側索硬化症(ALS)治療薬であるロピニロール塩酸塩の実用化第1/2a相試験	岡野栄之	生理学	58,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究(都市部を担当しつつ未展開地域を支えるIRUD拠点病院のあり方に関する研究)	小崎健次郎	医学部臨床遺伝学センター	5,200,000	補委○	日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究(国内データの結集を促進し海外と戦略的に連携するIRUDデータセンターのあり方に関する研究)	小崎健次郎	医学部臨床遺伝学センター	32,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究(ゲノム情報と医療情報の統合により診断率の格段の向上を図るIRUD解析センターのあり方に関する研究)	小崎健次郎	医学部臨床遺伝学センター	110,500,000	補委○	日本医療研究開発機構

脂肪酸摂取モデルを使用した炎症性腸疾患の病態解明	筋野智久	内科学(消化器)	11,958,700	補委○	日本医療研究開発機構
ステロイド治療抵抗性の天疱瘡患者を対象としたリツキシマブの医師主導治験	天谷雅行	皮膚科学	49,920,000	補委○	日本医療研究開発機構
後縦靭帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究	松本守雄	整形外科	27,690,000	補委○	日本医療研究開発機構
疾患特異的iPS細胞創薬に基づいた筋萎縮性側索硬化症(ALS)治験における薬剤応答性評価技術の開発	岡野栄之	生理学	26,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
難治性クローン病に対する神経難病治療薬OCH-NCNPの有用性および安全性を検証する医師主導治験	金井隆典	内科学(消化器)	48,100,000	補委○	日本医療研究開発機構
耳鳴診療ガイドラインの開発に関する研究	小川郁	耳鼻咽喉科学	2,700,000	補委○	日本医療研究開発機構
新たな認知行動療法プログラムによる疾病治療ならびに健康増進とその普及による健康イノベーション創出	中川敦夫	医学部臨床研究推進センター	5,220,000	補委○	日本医療研究開発機構
慢性抑うつ神経生理基盤の解明とその病態に基づいた新規ニューロモデュレーション治療法の開発	三村将	精神・神経科学	8,843,380	補委○	日本医療研究開発機構
ヒト脳由来エクソソームを利用した認知症患者を層別化する手法の開発研究	加部泰明	医化学	14,651,000	補委○	日本医療研究開発機構
ヒト脳由来エクソソームを利用した認知症患者を層別化する手法の開発研究	三村将	精神・神経科学	67,909,400	補委○	日本医療研究開発機構
レジストリ構築を効率的に進めるためのITの活用	岸本泰士郎	精神・神経科学	1,950,000	補委○	日本医療研究開発機構
耳鼻咽喉科領域のデータ収集と解析	小川郁	耳鼻咽喉科学	600,000	補委○	日本医療研究開発機構
神経内科・老年内科・精神科領域のデータ収集と解析	三村将	精神・神経科学	399,984	補委○	日本医療研究開発機構
適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	三村将	精神・神経科学	1,200,000	補委○	日本医療研究開発機構
プロダクティブ・エイジング(生産的高齢化)社会の実現に向けた難聴者への補聴介入一遂行機能と社会活動性に注目した検討	大石直樹	耳鼻咽喉科学	500,000	補委○	日本医療研究開発機構
BPSDに伴う認知症介護者の心理ストレスに対する認知行動療法	藤澤大介	医学部	1,036,946	補委○	日本医療研究開発機構
健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究	三村将	精神・神経科学	10,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
抗うつ薬とモノアミンの同時全脳マッピングによる、新しいSSRI標的脳部位の探索	杉浦悠毅	医化学	13,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
AMPA受容体の量に基づく精神神経疾患の新規病型分類と治療法の開発	三村将	精神・神経科学	34,102,530	補委○	日本医療研究開発機構
霊長類ミクロ・マクロネクトーム解析及びマーモセット脳科学研究支援	芝田晋介	電子顕微鏡研究室	81,364,400	補委○	日本医療研究開発機構
幹細胞活性を持つCML微小残存病変の特性解明と高感度検出法開発	森毅彦	内科学(血液)	1,950,000	補委○	日本医療研究開発機構
HER2増幅固形癌に対するトラスツズマブ・ペルツツマブ併用療法のバスケットトライアル: 慶應グループにおけるリクルート	西原広史	医学部	4,902,560	補委○	日本医療研究開発機構
腫瘍血管・がん微小環境のネットワークの解明と新規血管新生阻害療法の開発	西原広史	医学部	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
腫瘍血管ダイナミクスの解明と個別化医療を目指した革新的医療の開発	西原広史	医学部	350,000	補委○	日本医療研究開発機構
ヒト腸管オルガノイドを用いた大腸がん悪性化機構および微小環境形成機構の解明	佐藤俊朗	内科学(消化器)	5,850,000	補委○	日本医療研究開発機構

小児およびAYA世代の横紋筋肉腫およびユーイング肉腫患者に対するリスク層別化臨床試験実施による標準的治療法の開発	大喜多肇	病理学	585,000	補委○	日本医療研究開発機構
臨床病期 I / II 期非小細胞肺癌におけるリンパ節郭清の縮小化の治療的意義を検証するランダム化比較試験	菱田智之	外科学(呼吸器)	780,000	補委○	日本医療研究開発機構
臨床病期 I / II 期非小細胞肺癌におけるリンパ節郭清の縮小化の治療的意義を検証するランダム化比較試験	浅村尚生	外科学(呼吸器)	1,170,000	補委○	日本医療研究開発機構
リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する標準的リンパ節郭清確立のための多施設共同臨床試験	青木大輔	産婦人科学(婦人科)	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	中山タラントロバート	整形外科学	200,001	補委○	日本医療研究開発機構
進行がん患者に対するスクリーニングを組み合わせた看護師主導による治療早期からの専門的緩和ケア介入プログラムの臨床的有用性を検証する無作為化比較試験	藤澤大介	医学部	0	補委○	日本医療研究開発機構
がんゲノム個別化医療の実現に向けた遺伝子診断共通カリキュラム構築と教育・研修プログラムの実証の開発研究	林田哲	外科学(一般・消化器)	1,560,000	補委○	日本医療研究開発機構
効率の良いガイドラインの運用に向けた手引きの作成(統括)	青木大輔	産婦人科学(婦人科)	1,400,000	補委○	日本医療研究開発機構
小児フィラデルフィア染色体(Ph)陽性ALLに対する標準的治療法の確立(小児急性リンパ性白血病に対する標準的治療法の確立)	嶋田博之	小児科学	130,000	補委○	日本医療研究開発機構
中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するテモゾロミドを用いた標準治療確立に関する研究	佐々木光	脳神経外科学	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	青木大輔	産婦人科学(婦人科)	1,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
局所進行食道癌に対する新しい術前治療を確立する研究	北川雄光	外科学(一般・消化器)	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
子宮頸癌予防のためのリスク低減を目的としたヒトパピローマウイルス(HPV)標的粘膜免疫療法の医師主導治験	岩田卓	産婦人科学(婦人科)	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
非浸潤または非小細胞肺癌に対する標準的機能温存手術の確立に関する研究	浅村尚生	外科学(呼吸器)	500,000	補委○	日本医療研究開発機構
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	北川雄光	外科学(一般・消化器)	390,000	補委○	日本医療研究開発機構
細胞外miRNAとCMTM6-PD-L1ネットワークを標的とした革新的肉腫核酸治療の構築	浅野尚文	整形外科学	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
小児Ph染色体陽性白血病に対するチロシンキナーゼ阻害薬の適正使用に関する研究開発	嶋田博之	小児科学	19,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
小児からAYA世代頭蓋外胚細胞腫瘍の治療毒性低減を目指した国際共同臨床試験	黒田達夫	外科学(小児)	11,700,000	補委○	日本医療研究開発機構
早期胃癌に対する画期的な個別的・超低侵襲手術法の開発と検証	北川雄光	外科学(一般・消化器)	42,750,000	補委○	日本医療研究開発機構
DDS技術に基づくPEG化スルファサラジンを用いたがん幹細胞標的治療の開発	佐谷秀行	先端医科学研究所(遺伝子)	55,890,000	補委○	日本医療研究開発機構
外来がんリハビリテーションプログラムの開発に関する研究	辻哲也	リハビリテーション医学	18,041,620	補委○	日本医療研究開発機構
臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	北川雄光	外科学(一般・消化器)	19,080,000	補委○	日本医療研究開発機構
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究(6-2)	浅村尚生	外科学(呼吸器)	12,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	青木大輔	産婦人科学(婦人科)	74,660,000	補委○	日本医療研究開発機構
様々ながん抗原を標的とし長期生存能を持つT細胞による新たな個別化免疫細胞療法の開発	近藤泰介	微生物学・免疫学	3,250,000	補委○	日本医療研究開発機構

微小環境変化に起因する脳腫瘍幹細胞の代謝不均一性が生む治療抵抗性の打破	サンペトラオルテア	先端医科学研究所(遺伝子)	15,150,000	補委○	日本医療研究開発機構
肺癌オルガノイドライブラリーを用いたprecision medicineの確立と新規治療標的の同定	安田浩之	内科学(呼吸器)	15,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
分子プロファイリングを基盤とした小児期からAYA世代に発症する難治がんの新規治療法の開発	大喜多肇	病理学	300,000	補委○	日本医療研究開発機構
「NGS技術を駆使した遺伝学的解析による家族性乳がんの原因遺伝子同定と標準化医療構築」	青木大輔	産婦人科学(婦人科)	1,200,000	補委○	日本医療研究開発機構
酸化ストレス抵抗性を促進するアミノ酸輸送および代謝経路を標的としたがん幹細胞制御治療法の開発	永野修	先端医科学研究所(遺伝子)	21,304,000	補委○	日本医療研究開発機構
がん多階層フェノタイプの理解に基づいた先端的創薬システムの開発	佐藤俊朗	内科学(消化器)	25,477,000	補委○	日本医療研究開発機構
免疫チェックポイント阻害剤反応性を考慮したがん免疫微小環境とそれを反映する血液因子の解析による免疫制御分子の同定と制御法の開発	河上裕	先端医科学研究所(細胞)	22,863,000	補委○	日本医療研究開発機構
大スケール神経細胞分化誘導法の開発	岡野栄之	生理学	11,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
重症高アンモニア血症を生じる尿素サイクル異常症に対するヒト胚性幹(ES)細胞由来再生医療等製品に関する医師主導治験	黒田達夫	外科学(小児)	6,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
脊髄再生治療に付随するリハビリテーション治療の構築に関する研究	中村雅也	整形外科学	94,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
進行性の子宮頸癌に対する腫瘍浸潤リンパ球輸注療法	河上裕	先端医科学研究所(細胞)	50,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
iPS細胞を用いた再生心筋細胞移植による重症心不全治療法の確立	福田恵一	内科学(循環器)	30,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
iPS細胞由来治療用角膜内皮代替細胞に関する臨床研究	榛村重人	眼科学	65,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経前駆細胞(iPS-NPC)を用いた再生医療	中村雅也	整形外科学	54,290,000	補委○	日本医療研究開発機構
多能性幹細胞の代謝機構に基づく機能制御とその応用	遠山周吾	ブリヂストン臓器再生医学寄附講座	22,750,000	補委○	日本医療研究開発機構
iPS細胞由来神経前駆細胞を『高品質化』する手法の開発	神山淳	生理学	16,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
多能性幹細胞由来細胞種の自動判別法の確立とその応用	湯浅慎介	内科学(循環器)	26,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
ヒトiPS細胞と生体臓器骨格の融合による新たな再生臓器移植両方の開発	八木洋	外科学(一般・消化器)	21,580,000	補委○	日本医療研究開発機構
NKT細胞再生によるがん免疫治療技術開発拠点	岡野栄之	生理学	4,680,000	補委○	日本医療研究開発機構
培養腸上皮幹細胞を用いた炎症性腸疾患に対する粘膜再生治療の開発拠点	佐藤俊朗	内科学(消化器)	31,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
iPS細胞由来神経前駆細胞を用いた脊髄損傷・脳梗塞の再生医療	岡野栄之	生理学	243,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
疾患特異的iPS細胞を用いた下垂体疾患モデルの創出を目指した研究	長谷川奉延	小児科学	8,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
難治性骨軟骨疾患に対する革新的iPS創薬技術の開発と応用	宮本健史	先進運動器疾患治療学寄附講座	2,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
小児てんかん性脳症の革新的創薬を見据えた病態解析	石川充	生理学	8,910,000	補委○	日本医療研究開発機構
神経疾患特異的iPS細胞を活用した病態解明と新規治療法の創出を目指した研究	岡野栄之	生理学	81,000,000	補委○	日本医療研究開発機構

iPS細胞技術を基盤とする血小板製剤の開発と臨床試験(iPS細胞由来ヒト血小板の前臨床評価及び臨床試験プロトコル化)	岡本真一郎	内科学(血液)	8,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業	坂元亨宇	病理学	85,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
多層のオミックス解析による、がん、精神疾患、腎疾患を対象とした医療技術開発	金井弥栄	病理学	0	補委○	日本医療研究開発機構
がん、精神疾患、腎疾患を対象とした医療技術開発のエピゲノム拠点における解析	金井弥栄	病理学	12,496,697	補委○	日本医療研究開発機構
多層のオミックス解析による、がん、精神疾患、腎疾患を対象とした医療技術開発	金井弥栄	病理学	13,546,000	補委○	日本医療研究開発機構
オンチップ腫瘍培養法を用いた膵管癌における腫瘍特異的な代謝プロファイルの解明と新たな免疫チェックポイント因子の探索(原文:Tumor on a chip: Discovering PDAC metabolic microenvironmental factors that attenuate T cell reactivity)	近藤泰介	微生物学・免疫学	2,999,360	補委○	日本医療研究開発機構
筋ジストロフィーの鑑別診断における自己抗体測定の意義	鈴木重明	内科学(神経)	900,000	補委○	精神・神経医療研究センター
筋ジストロフィー治療方法開発へ向けた骨格金再生療法の開発	湯浅慎介	内科学(循環器)	1,000,000	補委○	精神・神経医療研究センター
うつ病に対する遠隔インターネットhybrid認知行動療法の開発とその効果に関する研究	中川敦夫	医学部臨床研究推進センター	800,000	補委○	精神・神経医療研究センター
ハイリスク群の予防介入研究シーズ評価育成基盤の構築	鈴木秀和	医学教育統轄センター	1,000,000	補委○	国立がん研究センター
肺がん診療均てん化におけるQIとデータ活用の検討	浅村尚生	外科学(呼吸器)	600,000	補委○	国立がん研究センター
大人向けがん教育啓発プログラムコンテンツの開発	藤澤大介	医学部	300,000	補委○	国立がん研究センター
1)多施設共同研究体の構築、2)婦人科がんに関する症例登録・遺伝子型—臨床情報の関連解析等	青木大輔	産婦人科学(婦人科)	500,000	補委○	国立がん研究センター
がん幹細胞を標的とした新規分子標準的治療薬の開発に関する研究	佐谷秀行	先端医科学研究所(遺伝子)	1,500,000	補委○	国立がん研究センター
食道がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	北川雄光	外科学(一般・消化器)	500,000	補委○	国立がん研究センター
コホート研究における精神疾患関連要因、および実態調査	三村将	精神・神経科学	100,000	補委○	国立がん研究センター
様々なデータを用いたAI解析によるうつ病の診断、重症度、反応性、層別化に関する実証研究	岸本泰士郎	精神・神経科学	1,300,000	補委○	厚生労働省
IgG4 関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指す研究	岩崎栄典	内科学(消化器)	500,000	補委○	厚生労働省
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究	山岸暁美	衛生学公衆衛生学	200,000	補委○	厚生労働省
ミトコンドリア病の調査研究	末岡浩	産婦人科学(産科)	240,000	補委○	厚生労働省
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究	小杉志都子	麻酔学	200,000	補委○	厚生労働省
親子の心の診療を実施するための人材育成方法と診療ガイドライン・保険指導プログラムの作成に関する研究	関口進一郎	小児科学	200,000	補委○	厚生労働省
角膜炎の標準的診断法および治療法の確立を目指した調査研究	榛村重人	眼科学	600,000	補委○	厚生労働省
今後の糖尿病対策と医療体制整備のための研究	岡村智教	衛生学公衆衛生学	2,000,000	補委○	厚生労働省

特発性造血障害に関する調査研究	岡本真一郎	内科学(血液)	500,000	補○ 委	厚生労働省
重度かつ慢性の精神障害者に対する包括的支援に関する政策研究—薬物療法研究班	内田裕之	精神・神経科学	800,000	補○ 委	厚生労働省
もやもや病(ウイルス動脈輪閉塞症)の診断、治療に関する研究	中原仁	内科学(神経)	500,000	補○ 委	厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	佐野元昭	内科学(循環器)	200,000	補○ 委	厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患の移行期を包含し診療の質の向上に関する研究	黒田達夫	外科学(小児)	100,000	補○ 委	厚生労働省
ゲノム情報を活用した遺伝性乳癌卵巣癌診療の標準化と先制医療実装に向けたエビデンス構築に関する研究	青木大輔	産婦人科学(婦人科)	1,200,000	補○ 委	厚生労働省
健康診査・保健指導の有効性評価に関する研究	岡村智教	衛生学公衆衛生学	1,400,000	補○ 委	厚生労働省
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	高橋勇人	皮膚科学	700,000	補○ 委	厚生労働省
効率的な臍帯血確保とエビデンスに基づいた臍帯血ユニット選択基準の再評価による臍帯血資源の有効利用法の確立	森毅彦	内科学(血液)	600,000	補○ 委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	竹内勤	常任理事	500,000	補○ 委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	坪田一男	眼科学	500,000	補○ 委	厚生労働省
神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	中原仁	内科学(神経)	200,000	補○ 委	厚生労働省
スモンに関する調査研究	里宇明元	リハビリテーション医学	700,000	補○ 委	厚生労働省
3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究	林田哲	外科学(一般・消化器)	300,000	補○ 委	厚生労働省
先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究	佐藤泰憲	衛生学公衆衛生学	200,000	補○ 委	厚生労働省
先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究	瀧本康史	外科学(小児)	200,000	補○ 委	厚生労働省
先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究	渡邊航太	整形外科	200,000	補○ 委	厚生労働省
先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究	黒田達夫	外科学(小児)	450,000	補○ 委	厚生労働省
先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究	肥沼悟郎	小児科学	200,000	補○ 委	厚生労働省
肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究	宮田裕章	医療政策・管理学	2,000,000	補○ 委	厚生労働省
在宅医療の提供体制の評価指標の開発のための研究	山岸暁美	衛生学公衆衛生学	500,000	補○ 委	厚生労働省
地域におけるかかりつけ医等を中心とした心不全の診療提供体制構築のための研究	香坂俊	内科学(循環器)	100,000	補○ 委	厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	竹内勤	常任理事	60,000	補○ 委	厚生労働省
地域における循環器疾患発症及び重症化予防に対する取組の推進のための研究	岡村智教	衛生学公衆衛生学	500,000	補○ 委	厚生労働省
パーチェット病に関する調査研究	井上詠	医学部予防医療センター	400,000	補○ 委	厚生労働省

血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者の肝移植に関する研究	篠田昌宏	外科学(一般・消化器)	500,000	補○ 委	厚生労働省
アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築	天谷雅行	皮膚科学	200,000	補○ 委	厚生労働省
小児期から移行期・成人期を包括する希少難治性慢性消化器疾患の医療政策に関する研究	瀧本康史	外科学(小児)	300,000	補○ 委	厚生労働省
小児期から移行期・成人期を包括する希少難治性慢性消化器疾患の医療政策に関する研究	黒田達夫	外科学(小児)	300,000	補○ 委	厚生労働省
我が国の関節リウマチ診療の標準化に関する臨床免学研究	金子祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	80,000	補○ 委	厚生労働省
新旧(1980-2020年)のライフスタイルからみた国民代表集団大規模コホート研究:NIPPON DATA80/90/2010/2020	岡村智教	衛生学公衆衛生学	200,000	補○ 委	厚生労働省
非癌、慢性炎症性リンパ節・骨髄異常を示すキャスルマン病、TAFRO症候群その類縁疾患の診断基準、重症度分類の改正、診断・治療のガイドラインの策定に関する調査研究	岡本真一郎	内科学(血液)	100,000	補○ 委	厚生労働省
HIV検査受検勧奨に関する研究	加藤真吾	微生物学・免疫学	6,500,000	補○ 委	厚生労働省
難治性聴覚障害に関する調査研究	小川郁	耳鼻咽喉科学	500,000	補○ 委	厚生労働省
特発性心筋症に関する調査研究	福田恵一	内科学(循環器)	350,000	補○ 委	厚生労働省
骨髄バンクコーディネーター期間の短縮とドナープールの質向上による造血幹細胞移植の最適な機会提供に関する研究	岡本真一郎	内科学(血液)	300,000	補○ 委	厚生労働省
プラダー・ウィリ症候群における診療ガイドラインの作成	石井智弘	小児科学	150,000	補○ 委	厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	福永興老	内科学(呼吸器)	100,000	補○ 委	厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	緒方晴彦	医学部内視鏡センター	3,000,000	補○ 委	厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	金井隆典	内科学(消化器)	250,000	補○ 委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	中村雅也	整形外科	400,000	補○ 委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	松本守雄	整形外科	250,000	補○ 委	厚生労働省
がんゲノム医療推進を目指した医療情報の利活用にかかる国内外の法的基盤の運用と課題に関する調査研究	平沢晃	産婦人科学(婦人科)	1,540,000	補○ 委	厚生労働省
医療経済評価の政策応用に向けた評価手法およびデータの確立と評価体制の整備に関する研究	宮田裕章	医療政策・管理学	4,875,000	補○ 委	厚生労働省
先天異常症候群領域の指定難病等のQOLの向上を目指す包括的研究	増井徹	医学部臨床遺伝学センター	300,000	補○ 委	厚生労働省
先天異常症候群領域の指定難病等のQOLの向上を目指す包括的研究	小崎健次郎	医学部臨床遺伝学センター	25,499,000	補○ 委	厚生労働省
がんリハビリテーションの均てん化に資する効果的な研修プログラムの策定のための研究	辻哲也	リハビリテーション医学	4,992,000	補○ 委	厚生労働省
生涯にわたる循環器疾患の個人リスクおよび集団のリスク評価ツールの開発を目的とした大規模コホート統合研究	岡村智教	衛生学公衆衛生学	9,350,000	補○ 委	厚生労働省
外国人患者の受入環境整備に関する研究	北川雄光	外科学(一般・消化器)	10,892,000	補○ 委	厚生労働省

稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	天谷雅行	皮膚科学	26,000,000	補○ 委	厚生労働省
オルトトルイジン等芳香族アミンによる膀胱がんの原因解明と予防に係る包括的研究	武林亨	衛生学公衆衛生学	14,250,000	補○ 委	厚生労働省
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	栗原勲	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	450,000	補○ 委	厚生労働省
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	石井智弘	小児科学	450,000	補○ 委	厚生労働省
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	長谷川奉延	小児科学	14,640,000	補○ 委	厚生労働省
非血縁者間末梢血幹細胞移植における末梢血幹細胞の効率的提供と至適な利用率増加に繋がる実践的支援体制の整備	岡本真一郎	内科学(血液)	6,748,000	補○ 委	厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究	村田満	臨床検査医学	20,000,000	補○ 委	厚生労働省
リンパ管疾患データベースの整備及び疾患関連試料基礎バンクの作成	黒田達夫	外科学(小児)	225,000	補 委○	国立成育医療研究センター
MIRAGE症候群の自然歴と表現型スペクトラムの解明を目指した臨床研究	芝田晋介	電子顕微鏡研究室	250,000	補 委○	国立成育医療研究センター
リウマチ医療に関する医療技術等国際展開推進事業	鈴木勝也	内科学(リウマチ・膠原病)	10,000,000	補 委○	国立国際医療研究センター
生体内を精密に再現した造血幹細胞培養法の開発	加部泰明	医化学	2,000,000	補 委○	国立国際医療研究センター
うっ血性肝硬変・肝癌(小児・成人)の線維化診断法の確立	坂元亨宇	病理学	2,000,000	補 委○	国立国際医療研究センター
生体内を精密に再現した造血幹細胞培養法の開発	加部泰明	医化学	2,000,000	補 委○	国立国際医療研究センター

計280件

(注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定 機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hashimoto K, Hoetzenecker K, Yeung JC et al.	医学部外科学(呼吸器)	Intraoperative extracorporeal support during lung transplantation in patients bridged with venovenous extracorporeal membrane oxygenation	J Heart Lung Transplant. 2018 Dec;37(12):1418-1424	Original Article
2	Aketa N, Shinzawa M, Kawashima M et al.	医学部眼科学	Efficacy of Plate Expression of Meibum on Tear Function and Ocular Surface Findings in Meibomian Gland Disease	Eye Contact Lens. 2019 Jan;45(1):19-22	Original Article
3	Sano M, Chen S, Imazeki H et al.	医学部内科学(循環器)	Changes in heart rate in patients with type 2 diabetes mellitus after treatment with luseogliflozin: Subanalysis of placebo-controlled,	J Diabetes Investig. 2018 May;9(3):638-641	Letter
4	Inamo J, Kaneko Y, Takeuchi T	医学部外科学(一般・消化器)	Inflammatory tenosynovitis and enthesitis induced by immune checkpoint inhibitor treatment	Clin Rheumatol. 2018 Apr;37(4):1107-1110	Original Article
5	Nishizawa T, Akimoto T, Uraoka T et al.	医学部内科学(消化器)	Endoscopic string clip suturing method: a prospective pilot study (with video)	Gastrointest Endosc. 2018 Apr;87(4):1074-1078	Original Article
6	Kobayashi K, Nakachi I, Naoki K et al.	医学部内科学(呼吸器)	Real-world Efficacy and Safety of Nivolumab for Advanced Non-Small-cell Lung Cancer: A Retrospective Multicenter Analysis	Clin Lung Cancer. 2018 May;19(3):e349-e358	Original Article
7	Asakura T, Ishii M, Ishii K et al.	医学部内科学(呼吸器)	Health-related QOL of elderly patients with pulmonary M. avium complex disease in a university hospital	Int J Tuberc Lung Dis. 2018 Jun 1;22(6):695-703	Original Article
8	Sakurai K, Chubachi S, Irie H et al.	医学部内科学(呼吸器)	Clinical utility of blood neutrophil-lymphocyte ratio in Japanese COPD patients	BMC Pulm Med. 2018 May 2;18(1):65(オンライン)	Original Article
9	Betsuyaku T, Kato M, Fujimoto K et al.	医学部内科学(呼吸器)	A randomized trial of symptom-based management in Japanese patients with COPD	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2018 Aug 13;13:2409-2423(オンライン)	Original Article
10	Sato T, Soejima K, Fujisawa D et al.	医学部内科学(呼吸器)	Prognostic Understanding at Diagnosis and Associated Factors in Patients with Advanced Lung Cancer and Their Caregivers	Oncologist. 2018 Oct;23(10):1218-1229	Original Article
11	Okamoto S, Teshima T, Kosugi- Kanaya M et al.	医学部内科学(血液)	Extracorporeal photopheresis with TC-V in Japanese patients with steroid-resistant chronic graft-versus-host disease	Int J Hematol. 2018 Sep;108(3):298-305	Original Article
12	Mori H, Suzuki H, Matsuzaki J et al.	医学部内科学(消化器)	Acquisition of double mutation in gyrA caused high resistance to sitafloxacin in Helicobacter pylori after unsuccessful eradication with sitafloxacin-containing regimens	United European Gastroenterol J. 2018 Apr;6(3):391-397	Original Article

13	Horibe M, Ogura Y, Matsuzaki J et al.	医学部内科学(消化器)	Absence of high-risk stigmata predicts good prognosis even in severely anemic patients with suspected acute upper gastrointestinal bleeding	United European Gastroenterol J. 2018 Jun;6(5):684-690	Original Article
14	Kikuchi R, Irie J, Yamada-Goto N et al.	医学部内科学(腎・内・代謝)	The Impact of Laparoscopic Sleeve Gastrectomy with Duodenojejunal Bypass on Intestinal Microbiota Differs from that of Laparoscopic Sleeve Gastrectomy in Japanese Patients with Obesity	Clin Drug Investig. 2018 Jun;38(6):545-552	Original Article
15	Daimon K, Fujiwara H, Nishiwaki Y et al.	医学部整形外科学	A 20-Year Prospective Longitudinal Study of Degeneration of the Cervical Spine in a Volunteer Cohort Assessed Using MRI: Follow-up of a Cross-Sectional Study	J Bone Joint Surg Am. 2018 May 16;100(10):843-849	Original Article
16	Kosaka T, Shinojima T, Morita S et al.	医学部泌尿器科学	Prognostic significance of grade 3/4 neutropenia in Japanese prostate cancer patients treated with cabazitaxel	Cancer Sci. 2018 May;109(5):1570-1575	Original Article
17	Maeda T, Kikuchi E, Hasegawa M et al.	医学部泌尿器科学	Change of the 5alpha/5beta ratio of urinary steroid metabolites in benign prostatic hyperplasia patients treated with dutasteride	Am J Geriatr Psychiatry. 2017 Jul;25(7):708-716	Original Article
18	Hayashida T, Jinno H, Mori K et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Phase II trial of eribulin mesylate as a first- or second-line treatment for locally advanced or metastatic breast cancer: a multicenter, single-arm trial	BMC Cancer. 2018 Jun 28;18(1):701 (オンライン)	Original Article
19	Matsuda T, Takeuchi H, Sakurai T et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Pilot study of WT1 peptide-pulsed dendritic cell vaccination with docetaxel in esophageal cancer	Oncol Lett. 2018 Jul;16(1):1348-1356	Original Article
20	Fujimura N, Matsubara K, Takahara M et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Early sac shrinkage is a good surrogate marker of durable success after endovascular aneurysm repair in Japanese patients	J Vasc Surg. 2018 May;67(5):1410-1418	Original Article
21	Takeuchi, Suda K, Hamamoto Y et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Technical feasibility and oncologic safety of diagnostic endoscopic resection for superficial esophageal cancer	Gastrointest Endosc. 2018 Sep;88(3):456-465	Original Article
22	Mayanagi S, Kashiwabara K, Honda M et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Risk Factors for Peritoneal Recurrence in Stage II to III Colon Cancer	Dis Colon Rectum. 2018 Jul;61(7):803-808	Original Article
23	Shoji Y, Takeuchi H, Goto O et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Optimal minimally invasive surgical procedure for gastric submucosal tumors	Gastric Cancer. 2018 May;21(3):508-515	Original Article
24	Yagi M, Fujita N, Tsuji O et al.	医学部整形外科学	Low Bone-Mineral Density Is a Significant Risk for Proximal Junctional Failure After Surgical Correction of Adult Spinal Deformity: A Propensity Score-Matched Analysis	Spine (Phila Pa 1976). 2018 Apr 1;43(7):485-491	Original Article
25	Yagi M, Fujita N, Okada E et al.	医学部整形外科学	Fine-tuning the Predictive Model for Proximal Junctional Failure in Surgically Treated Patients With Adult Spinal Deformity	Spine (Phila Pa 1976). 2018 Jun 1;43(11):767-773	Original Article
26	Yung D, Kikuta K, Sekita T et al.	医学部整形外科学	Conservative surgical management of simple monostotic fibrous dysplasia of the proximal femur in a 19-year-old basketballer: a case report	J Med Case Rep. 2018 Aug 31;12(1):240	Case report

27	Chiba K, Matsuyama Y, Seo T et al.	医学部整形外科学	Condoliase for the Treatment of Lumbar Disc Herniation: A Randomized Controlled Trial	Spine (Phila Pa 1976). 2018 Aug 1;43(15):E869-E876	Original Article
28	Ishihara S, Fujita N, Yagi M et al.	医学部整形外科学	Idiopathic Spinal Epidural Fat Accumulation Is Associated With Hyperlipidemia	Spine (Phila Pa 1976). 2018 Apr 15;43(8):E468-E473	Original Article
29	Kaido M, Kawashima M, Shigeno Y et al.	医学部眼科学	Randomized Controlled Study to Investigate the Effect of Topical Diquafosol Tetrasodium on Corneal Sensitivity in Short Tear Break-Up Time Dry Eye	Adv Ther. 2018 May;35(5):697-706	Original Article
30	Onomura S, Kawashima M, Aketa N et al.	医学部眼科学	Effect of Ultrasonic Moisture Glasses on Dry Eye Signs and Symptoms	Transl Vis Sci Technol. 2018 Oct 1;7(5):18 (オン ライン)	Original Article
31	Uchino M, Kawashima M, Uchino Y et al.	医学部眼科学	The evaluation of dry eye mobile apps for screening of dry eye disease and educational tear event in Japan	Ocul Surf. 2018 Oct;16(4):430-435	Original Article
32	Nishio H, Iwata T, Nomura H et al.	医学部産婦人科学	Liquid-based cytology versus conventional cytology for detection of uterine cervical lesions: a prospective observational study	Jpn J Clin Oncol. 2018 Jun 1;48(6):522-528	Original Article
33	Muto J, Dezamis E, Rigaux-Viode O et al.	医学部脳神経外科学	Functional-Based Resection Does Not Worsen Quality of Life in Patients with a Diffuse Low-Grade Glioma Involving Eloquent Brain Regions: A Prospective Cohort Study	World Neurosurg. 2018 May;113:e200-e212	Original Article
34	Mizutani K, Akiyama T, Minami Y et al.	医学部脳神経外科学	Intraosseous venous structures adjacent to the jugular tubercle associated with an anterior condylar dural arteriovenous fistula	Neuroradiology. 2018 May;60(5):487-496	Original Article
35	Arai N, Mizutani K, Takahashi S et al.	医学部脳神経外科学	Preoperative Assessment of Pathologic Subtypes of Meningioma and Solitary Fibrous Tumor/Hemangiopericytoma Using Dynamic Computed Tomography: A Clinical Research Study	World Neurosurg. 2018 Jul;115:e676-e680	Original Article
36	Wake T, Tabuchi H, Funaki K et al.	医学部精神・神経科学	The psychological impact of disclosing amyloid status to Japanese elderly: a preliminary study on asymptomatic patients with subjective cognitive decline	Int Psychogeriatr. 2018 May;30(5):635-639	Letter
37	Nakao S, Nakagawa, Oguchi Y et al.	医学部精神・神経科学	Web-Based Cognitive Behavioral Therapy Blended With Face-to-Face Sessions for Major Depression: Randomized Controlled Trial	J Med Internet Res. 2018 Sep 21;20(9):e10743 (オンラ イン)	Original Article
38	Naganuma M, Aoyama N, Tada T et al.	医学部内科学(消化器)	Complete mucosal healing of distal lesions induced by twice-daily budesonide 2-mg foam promoted clinical remission of mild-to-moderate ulcerative colitis with distal active inflammation: double-blind, randomized study	J Gastroenterol. 2018 Apr;53(4):494-506 Correction to Fig.2(c) J Gastroenterol. 2018 Apr;53(4):579-581	Original Article
39	Itoh H, Komuro I, Takeuchi M et al.	医学部内科学(腎・内・代)	Intensive Treat-to-Target Statin Therapy in High-Risk Japanese Patients With Hypercholesterolemia and Diabetic Retinopathy: Report of a Randomized Study	Diabetes Care. 2018 Jun;41(6):1275-1284	Original Article

40	Hayashida K, Kondo Y, Hifumi T et al.	医学部救急医学	A novel early risk assessment tool for detecting clinical outcomes in patients with heat-related illness (J-ERATO score): Development and validation in independent cohorts in Japan	PLoS One. 2018 May 9;13(5):e0197032 (オンライン)	Original Article
41	Shiraishi Y, Nagai T, Kohsaka S et al.	医学部内科学(循環器)	Outcome of hospitalised heart failure in Japan and the United Kingdom stratified by plasma N-terminal pro-B-type natriuretic peptide	Clin Res Cardiol. 2018 Dec;107(12):1103-1110	Original Article
42	Arai T, Yashima F, Yanagisawa R et al.	医学部内科学(循環器)	Hospital readmission following transcatheter aortic valve implantation in the real world	Int J Cardiol. 2018 Oct 15;269:56-60	Original Article
43	Yanagisawa R, Tanaka M, Yashima F et al.	医学部内科学(循環器)	Frequency and Consequences of Cognitive Impairment in Patients Underwent Transcatheter Aortic Valve Implantation	Am J Cardiol. 2018 Sep 1;122(5):844-850	Original Article
44	Hiraide T, Sawano M, Shiraishi Y et al.	医学部内科学(循環器)	Impact of catheter-induced iatrogenic coronary artery dissection with or without postprocedural flow impairment: A report from a Japanese multicenter percutaneous coronary intervention registry	PLoS One. 2018 Sep 28;13(9):e0204333 (オンライン)	Original Article
45	Isobe S, Kataoka M, Kawakami T et al.	医学部内科学(循環器)	Adiponectin in Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension	Circ J. 2018 Apr 25;82(5):1466-1468	Original Article
46	Hirota Y, Sawano M, Numasawa Y et al.	医学部内科学(循環器)	Characteristics and in-hospital outcomes in young patients presenting with acute coronary syndrome treated by percutaneous coronary intervention	Endocr J. 2017 Apr 29;64(4):463-475	Original Article
47	Uehara T, Takenouchi T, Kosaki R et al.	医学部臨床遺伝学センター	Redefining the phenotypic spectrum of de novo heterozygous CDK13 variants: Three patients without cardiac defects	Eur J Med Genet. 2018 May;61(5):243-247	Case report
48	Ogata H, Yokoyama T, Mizushima S et al.	医学部内視鏡センター	Comparison of efficacy of once daily multimatrix mesalazine 2.4 g/day and 4.8 g/day with other 5-aminosalicylic acid preparation in active ulcerative colitis: a randomized, double-blind study	Intest Res. 2018 Apr;16(2):255-266	Original Article
49	Kohsaka S, Katada J, Saito K et al.	医学部内科学(循環器)	Safety and effectiveness of apixaban in comparison to warfarin in patients with nonvalvular atrial fibrillation: a propensity-matched analysis from Japanese administrative claims data	Curr Med Res Opin. 2018 Sep;34(9):1627-1634	Original Article
50	Wakino S, Minakuchi H, Miya K et al.	医学部内科学(腎・内・代)	Aldosterone and Insulin Resistance: Vicious Combination in Patients on Maintenance Hemodialysis	Ther Apher Dial. 2018 Apr;22(2):142-151	Original Article
51	Irie H, Chubachi S, Sato M et al.	医学部内科学(循環器)	Impact of cataract on health-related quality of life in a longitudinal Japanese chronic obstructive pulmonary cohort	Chron Respir Dis. 2018 Nov;15(4):329-338	Original Article
52	Kaneko Y, Takeuchi T, Cai Z et al.	医学部内科学(リウマチ・膠原病)	Determinants of Patient's Global Assessment of Disease Activity and Physician's Global Assessment of Disease Activity in patients with rheumatoid arthritis: A post hoc analysis of overall and Japanese results from phase 3 clinical trials	Mod Rheumatol. 2018 Nov;28(6):960-967	Original Article

53	Hosoe N, Ohtsuka K, Endo Y et al.	医学部内視鏡センター	Insertability comparison of passive bending single-balloon prototype versus standard single-balloon enteroscopy: a multicenter randomized non-blinded trial	Endosc Int Open. 2018 Oct;6(10):E1184-E1189	Original Article
54	Sakaguchi Y, Uehara T, Suzuki H et al.	医学部臨床遺伝学センター	Haploinsufficiency of NCOR1 associated with autism spectrum disorder, scoliosis, and abnormal palatogenesis	Am J Med Genet A. 2018 Nov;176(11):2466-2469	Case report
55	Kimura T, Kashimura S, Nishiyama T et al.	医学部内科学(循環器)	Asymptomatic Cerebral Infarction During Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: Comparing Uninterrupted Rivaroxaban and Warfarin (ASCERTAIN)	JACC Clin Electrophysiol. 2018 Dec;4(12):1598-1609	Original Article
56	Shoji S, Kohsaka S, Kumamaru H et al.	医学部内科学(循環器)	Stroke After Percutaneous Coronary Intervention in the Era of Transradial Intervention	Circ Cardiovasc Interv. 2018 Dec;11(12):e006761 (オンライン)	Original Article
57	Kurihara Y, Yamagami J, Funakoshi T et al.	医学部皮膚科学	Rituximab therapy for refractory autoimmune bullous diseases: A multicenter, open-label, single-arm, phase 1/2 study on 10 Japanese patients	J Dermatol. 2019 Feb;46(2):124-130	Original Article
58	Hayashida K, Matsumoto S, Kitano M et al.	医学部救急医学	Predictive value of quick surgical airway assessment for trauma (qSAT) score for identifying trauma patients requiring surgical airway in emergency room	BMC Emerg Med. 2018 Nov 29;18(1):48 (オンライン)	Original Article
59	Noda Y, Zomorodi R, Daskalakis ZJ et al.	医学部精神・神経科学	Enhanced theta-gamma coupling associated with hippocampal volume increase following high-frequency left prefrontal repetitive transcranial magnetic stimulation in patients with major depression	Int J Psychophysiol. 2018 Nov;133:169-174	Original Article
60	Kanazawa T; Minami Y; Jinzaki M et al.	医学部脳神経外科学	Preoperative Prediction of Solitary Fibrous Tumor/Hemangiopericytoma and Angiomatous Meningioma Using Magnetic Resonance Imaging Texture Analysis	World Neurosurg. 2018 Dec;120:e1208-e1216	Original Article
61	Kuga D, Toda M, Yoshida K	医学部脳神経外科学	Treatment Strategy for Tuberculum Sellae Meningiomas Based on a Preoperative Radiological Assessment	World Neurosurg. 2018 Dec;120:e1279-e1288	Original Article
62	Matsuguma S, Kawashima M, Uchino M et al.	医学部眼科学	Value of considering psychological strengths in patients with eye pain	Am J Ophthalmol Case Rep. 2018 Oct 11;12:91-92	Case report
63	Yamane M, Ogawa Y, Fukui M et al.	医学部眼科学	Long-Term Topical Diquafosol Tetrasodium Treatment of Dry Eye Disease Caused by Chronic Graft-Versus-Host Disease: A Retrospective Study	Eye Contact Lens. 2018 Nov;44 Suppl 2:S215-S220	Original Article
64	Sugai K, Michikawa T, Takebayashi T et al.	医学部整形外科	Association between visual classification of kyphosis and future ADL decline in community-dwelling elderly people: the Kurabuchi study	Arch Osteoporos. 2018 Dec 18;14(1):3 (オンライン)	Original Article
65	Yagi M, Hosogane N, Fujita N et al.	医学部整形外科	Predictive model for major complications 2 years after corrective spine surgery for adult spinal deformity	Eur Spine J. 2019 Jan;28(1):180-187	Original Article

66	Okuyama K, Ogura M, Kawakami M et al.	医学部リハビリテーション医学	Effect of the combination of motor imagery and electrical stimulation on upper extremity motor function in patients with chronic stroke: preliminary results	Ther Adv Neurol Disord. 2018 Oct 9; 11:1756286418804785 (オンライン)	Original Article
67	Hayashi M, Kawakubo H, Shoji Y et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Analysis of the Effect of Early Versus Conventional Nasogastric Tube Removal on Postoperative Complications After Transthoracic Esophagectomy: A Single-Center, Randomized Controlled Trial	World J Surg. 2019 Feb;43(2):580-589	Original Article
68	Niwa N, Yoshida T, Mizuno R et al.	医学部泌尿器科学	Pre-operative and post-operative estimated glomerular filtration rate in Japanese patients with urological malignancies	Clin Exp Nephrol. 2018 Oct;22(5):1205-1212	Original Article
69	Wakamiya R, Seki H, Ideno S et al.	医学部麻酔学	Effects of prophylactic dexamethasone on postoperative nausea and vomiting in scoliosis correction surgery: a double-blind, randomized, placebo-controlled clinical trial	Sci Rep. 2019 Feb 14;9(1):2119 (オンライン)	Original Article
70	Yanagisawa R, Tanaka M, Yashima F et al.	医学部内科学(循環器)	Early and Late Leaflet Thrombosis After Transcatheter Aortic Valve Replacement	Circ Cardiovasc Interv. 2019 Feb;12(2):e007349 (オンライン)	Original Article
71	Ikemura N, Kohsaka S, Kimura T et al.	医学部内科学(循環器)	Assessment of Sex Differences in the Initial Symptom Burden, Applied Treatment Strategy, and Quality of Life in Japanese Patients With Atrial Fibrillation	JAMA Netw Open. 2019 Mar 1;2(3):e191145 (オンライン)	Original Article
72	Kimura M, Kohno T, Kawakami T et al.	医学部内科学(循環器)	Shortening Hospital Stay Is Feasible and Safe in Patients With Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension Treated With Balloon Pulmonary Angioplasty	Can J Cardiol. 2019 Feb;35(2):193-198	Original Article
73	Kato M, Ochiai Y, Fukuhara S et al.	医学部内科学(消化器)	Clinical impact of closure of the mucosal defect after duodenal endoscopic submucosal dissection	Gastrointest Endosc. 2019 Jan;89(1):87-93	Original Article
74	Tani H, Tada M, Maeda T et al.	医学部精神・神経科学	Comparison of emotional processing assessed with fear conditioning by interpersonal conflicts in patients with depression and schizophrenia	Psychiatry Clin Neurosci. 2019 Mar;73(3):116-125	Original Article
75	Hayashi I, Shinoda H, Nagai N et al.	医学部眼科学	Retinal inflammation diagnosed as an idiopathic macular hole with multiple recurrences and spontaneous closures: A case report	Medicine (Baltimore). 2019 Jan;98(4):e14230 (オンライン)	Case report
76	Tanabe H, Kaido M, Kawashima M et al.	医学部眼科学	Effect of Eyelid Hygiene Detergent on Obstructive Meibomian Gland Dysfunction	J Oleo Sci. 2019 Jan 1;68(1):67-78	Original Article
77	Tanabe H, Kawashima M, Kaido M et al.	医学部眼科学	Safety and efficacy of wiping lid margins with lid hygiene shampoo using the "eye brush", a novel lid hygiene item, in healthy subjects: a pilot study	BMC Ophthalmol. 2019 Feb 4;19(1):41 (オンライン)	Original Article
78	Yamashita K, Hatou S, Uchino Y et al.	医学部眼科学	Prognosis after lamellar keratoplasty for limbal dermoids using preserved corneas	Jpn J Ophthalmol. 2019 Jan;63(1):56-64	Original Article

79	Nagoshi N, Iwanami A, Isogai N et al.	医学部整形外科学	Does Posterior Cervical Decompression Conducted by Junior Surgeons Affect Clinical Outcomes in the Treatment of Cervical Spondylotic Myelopathy? Results From a Multicenter Study	Global Spine J. 2019 Feb;9(1):25-31	Original Article
80	Takahashi Y, Kawakami M, Yamaguchi T et al.	医学部リハビリテーション医学	Effects of Leg Motor Imagery Combined With Electrical Stimulation on Plasticity of Corticospinal Excitability and Spinal Reciprocal Inhibition	Front Neurosci. 2019 Feb 21;13:149 (オンライン)	Original Article
81	Nakamura R, Omori T, Mayanagi S et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Risk of lymph node metastasis in undifferentiated-type mucosal gastric carcinoma	World J Surg Oncol. 2019 Feb 13;17(1):32 (オンライン)	Original Article
82	Sakurai M, Kikuchi T, Karigane D et al.	医学部内科学(血液)	Renal dysfunction and anemia associated with long-term imatinib treatment in patients with chronic myelogenous leukemia	Int J Hematol. 2019 Mar;109(3):292-298	Original Article
83	Asakura T, Nakagawa T, Suzuki S et al.	医学部内科学(呼吸器)	Efficacy and safety of intermittent maintenance therapy after successful treatment of Mycobacterium avium complex lung disease	J Infect Chemother. 2019 Mar;25(3):218-221	Original Article
84	Masaki K, Tateno H, Kameyama N et al.	医学部内科学(呼吸器)	Impact of a Novel Smartphone App (CureApp Smoking Cessation) on Nicotine Dependence: Prospective Single-Arm Interventional Pilot Study	JMIR Mhealth Uhealth. 2019 Feb 19;7(2):e12694 (オンライン)	Original Article
85	Kusumoto T, Asakura T, Suzuki S et al.	医学部内科学(呼吸器)	Development of lung cancer in patients with nontuberculous mycobacterial lung disease	Respir Investig. 2019 Mar;57(2):157-164	Original Article
86	Kimura N, Suzuki K, Takeuchi T	医学部内科学(リウマチ・膠原病)	Demographics and clinical characteristics associated with sustained remission and continuation of sustained remission in patients with rheumatoid arthritis treated with adalimumab	Inflamm Regen. 2019 Mar 25;39:5 (オンライン)	Original Article
87	Itoh H, Kurihara I, Miyashita K	医学部内科学(腎・内・代)	Organ memory: a key principle for understanding the pathophysiology of hypertension and other non-communicable diseases	Hypertens Res. 2018 Oct;41(10):771-779	Review
88	Takeuchi M, Takeuchi H, Kawakubo H et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Update on the indications and results of sentinel node mapping in upper GI cancer	Clin Exp Metastasis. 2018 Aug;35(5-6):455-461	Review
89	Akiyama M, Takeuchi T	医学部内科学(リウマチ・膠原病)	IgG4-Related Disease: Beyond Glucocorticoids	Drugs Aging. 2018 Apr;35(4):275-287	Review
90	Hishikawa A, Hayashi K, Itoh H	医学部内科学(腎・内・代)	Transcription Factors as Therapeutic Targets in Chronic Kidney Disease	Molecules. 2018 May 9;23(5) (オンライン)	Review
91	Sugiyama K, Saisho Y	医学部内科学(腎・内・代)	Management of Dyslipidemia in Type 2 Diabetes: Recent Advances in Nonstatin Treatment	Diseases. 2018 May 24;6(2) (オンライン)	Review

92	Iimori T, Nakajima S, Miyazaki T et al.	医学部精神・神経科学	Effectiveness of the prefrontal repetitive transcranial magnetic stimulation on cognitive profiles in depression, schizophrenia, and Alzheimer's disease: A systematic review	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2019 Jan 10;88:31-40	Review
93	Kobayashi Y, Banno K, Kunitomi H et al.	医学部産婦人科学	Current state and outlook for drug repositioning anticipated in the field of ovarian cancer	J Gynecol Oncol. 2019 Jan;30(1):e10(オンライン)	Review
94	Booka E, Takeuchi H, Kikuchi H et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Recent advances in thoracoscopic esophagectomy for esophageal cancer	Asian J Endosc Surg. 2019 Jan;12(1):19-29	Review
95	Itoh H, Hayashi K, Miyashita K	医学部内科学(腎・内・代)	Pre-emptive medicine for hypertension and its prospects	Hypertens Res. 2019 Mar;42(3):301-305	Review
96	Kobashi H, Rong SS, Ciolino JB	医学部眼科学	Transepithelial versus epithelium-off corneal crosslinking for corneal ectasia	J Cataract Refract Surg. 2018 Dec;44(12):1507-1516	Review

計96件

(注 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec(オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準拠すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容	
<ul style="list-style-type: none">・ 人を対象とする医学系研究およびヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する標準業務手順書・ 人を対象とする医学系研究における安全性情報の取り扱いに関する標準業務手順書・ 人を対象とする医学系研究およびヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する個人情報保護ガイドライン・ 人体から取得された試料および情報等の保管に関する標準業務手順書・ 人を対象とする医学系研究およびヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する慶應義塾大学医学部倫理委員会標準業務手順書・ 慶應義塾大学医学部倫理委員会内規	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容	
<ul style="list-style-type: none">・ 慶應義塾利益相反マネジメント・ポリシー・ 慶應義塾利益相反マネジメント内規・ 大学病院臨床研究利益相反マネジメント委員会内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年12回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p><倫理審査委員会の委員向けの研修会></p> <ul style="list-style-type: none">・ 臨床試験の必要性と目的・ インフォームド・コンセントに関する審査ポイント <p><臨床研究の研究者向けの講習会></p> <ul style="list-style-type: none">・ 臨床研究におけるイエローカードー問題事例に学ぶ（第5弾）ー・ 臨床研究におけるイエローカードー問題事例に学ぶ（第6弾）ー・ 臨床研究講習会（2回）・ 臨床研究啓発セミナー（5回）・ JKIC臨床試験入門セミナー（8回）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	202 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
福田 恵一	内科	教室主任・診療科部長・教授	36年	内科統括
神田 武志	内科	専修医担当主任・専任講師	22年	内科統括
福永 興壺	呼吸器内科	診療科部長・教授	25年	
金井 隆典	消化器内科	診療科部長・教授	31年	
伊藤 裕	腎臓・内分泌・代謝内科	診療科部長・教授	36年	
中原 仁	神経内科	診療科部長・教授	16年	
森 毅彦	血液内科	診療科部長・准教授	26年	
金子 祐子	リウマチ・膠原病内科	診療科部長・准教授	22年	
北川 雄光	外科	教室主任・教授	33年	外科統括
岡林 剛史	外科	専修医担当主任・専任講師	20年	外科統括
尾原 秀明	一般・消化器外科	診療科部長・准教授	26年	
黒田 達夫	小児外科	診療科部長・教授	37年	

志水 秀行	心臓血管外科	診療科部長・教授	33年	
浅村 尚生	呼吸器外科	診療科部長・教授	36年	
吉田 一成	脳神経外科	教室主任・診療科部長・教授	38年	
森崎 浩	麻酔科	教室主任・診療科部長・教授	36年	
松本 守雄	整形外科	教室主任・診療科部長・教授	33年	
貴志 和生	形成外科	教室主任・診療科部長・教授	31年	
高橋 孝雄	小児科	教室主任・診療科部長・教授	37年	
田中 守	産科	診療科部長・教授	33年	
青木 大輔	婦人科	教室主任・診療科部長・教授	37年	産婦人科統括
坪田 一男	眼科	教室主任・教授	38年	
根岸 一乃	眼科	診療科部長・教授	31年	
天谷 雅行	皮膚科	教室主任・教授	34年	
谷川 瑛子	皮膚科	診療科部長・准教授	33年	
大家 基嗣	泌尿器科	教室主任・診療科部長・教授	32年	
小川 郁	耳鼻咽喉科	教室主任・診療科部長・教授	37年	
三村 将	精神・神経科	教室主任・診療科部長・教授	35年	
陣崎 雅弘	放射線診断科	教室主任・診療科部長・教授	32年	放射線科統括
茂松 直之	放射線治療科	診療科部長・教授	36年	
中川 種昭	歯科・口腔外科	教室主任・診療科部長・教授	34年	
里宇 明元	リハビリテーション科	教室主任・診療科部長・教授	40年	
佐々木 淳一	救急科	教室主任・診療科部長・教授	30年	
亀山 香織	病理診断科	診療科部長・准教授	31年	
藤島 清太郎	総合診療科	診療科部長・准教授	37年	
村田 満	臨床検査科	教室主任・診療科部長・教授	37年	
田野崎隆二	輸血・細胞療法センター	センター長・教授	34年	
三村 将	漢方医学センター	センター長・教授	35年	
佐藤 和毅	スポーツ医学総合センター	センター長・教授	30年	
大家 基嗣	血液浄化・透析センター	センター長・教授	31年	
長谷川 直樹	感染制御部	部長・教授	34年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 非該当 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 北川雄光	
管理担当者氏名	事務局長 松田美紀子	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第二項に掲げる事	病院日誌	秘書課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事統括室
		看護記録	医事統括室
		検査所見記録	医事統括室
		エックス線写真	医事統括室
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事統括室
			○紙媒体→一患者一番号制で外来・入院別に分けて集中管理を実施 ○電子媒体→情報システム部内にて、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に沿った管理を実施 ○診療記録は病院外への持ち出しを禁止している。但し、裁判所その他公的機関から要請があった場合は、病院長の許可を得て、病院外へ持ち出すことができる。
病院の管理及び運営に関する諸記録	事項 規則第二十二條の三第三項に掲げる	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事統括室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	臨床研究推進センター
		高度の医療の研修の実績	専修医研修センター
		閲覧実績	医事統括室
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事統括室
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事統括室 薬剤部		
			PCまたは紙媒体で保管
項に掲げる事項	規則第一條の十一第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部
			PCまたは紙媒体で保管

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部 医療安全管理部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医用工学室 医療安全管理部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医用工学室 医療安全管理部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医用工学室
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医用工学室		

PCまたは紙媒体で保管

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事統括室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	手術・血管造影センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者総合相談部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	総務課 経営企画室		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	業務監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	経営企画室		

PCまたは紙媒体で保管

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 北川 雄光		
閲覧担当者氏名	事務局長 松田 美紀子		
閲覧の求めに応じる場所	病院内 相談室		
閲覧の手続の概要 申請内容に基づき個別に対応する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>当院における医療安全管理体制の確立、医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について、指針を示し、適切な医療安全管理を推進し、安全な医療の提供に資することを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理に関する基本的な考え方 2) 組織及び体制 3) 医療安全管理委員会の設置 4) 医療安全管理部の設置 5) 外部監査 6) 特定機能病院間相互のピアレビュー 7) 医療安全管理のための従業者研修 8) 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策 9) 医療事故等発生時の対応 10) その他医療安全の推進のために必要な方針 11) 患者への情報提供 12) 患者からの相談への対応 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理のための指針に関する事項 2) 医療安全管理のための研修に関する基本的方針の決定と実施 3) 医療事故を未然に防止するための効果的な院内体制の確立 4) 当院において重大な問題、その他、委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査および分析、患者への対応状況の確認 5) 分析結果を活用した医療安全の確保を目的とした改善のための方策の立案 6) 改善のための方策の実施状況の調査および必要に応じた当該方策の見直し 7) 「医療安全管理委員会報告システム」を用いた実施状況の確認および確認結果を病院長ならびに医療安全管理責任者に報告 8) すべての死亡または死産事例に関する報告の実施状況確認、及び確認結果の病院長に報告 9) 実施状況が不十分な場合における、従業者への研修および指導 10) 医療安全に資する診療内容等についてのモニタリング項目の策定 11) 医療事故に関する報告書の書式の制定 12) 医療安全対策マニュアルの作成および改正ならびにその内容の従業者への周知徹底 13) その他、病院長から指示された事項 <p>委員会は前項について病院長に報告、必要に応じて提言をおこなう。</p>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： ・ 必須研修1：医療安全超入門、医療安全の基礎 ・ 必須研修2：医薬品の安全管理、医療機器の安全管理、個人情報の取り扱い、公益通報窓口 ・ 医療安全看護対策推進委員会：チューブトラブル、転倒転落事故、その他の事故、誤薬事故 ・ 第1回院内安全対策セミナー：Emergency Call、AED使用状況、BLS受講状況、院内のBLSプロバイダーコース ・ 第2回院内安全対策セミナー： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療同意能力に関する理解-臨床現場でよくおきる間違いをもとに- 2. 医療者が考えるアドバンス・ケア・プランニング-私たちができること- ・ 呼吸管理講習会：術後合併症を撲滅しよう！ <ol style="list-style-type: none"> 1. 効率的な口腔ケアで肺炎を予防しよう！ 2. 術後呼吸管理における酸素療法と加温・加湿の重要性 3. 術後早期からのリハビリの勧め 4. 術後呼吸器合併症を減らすために看護師ができること 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 従業者はインシデントおよびアクシデント事例が発生した場合には、速やかに「報告書」により医療安全管理委員会へ報告を行うものとしている。なお報告書は診療録、看護記録に基づき作成している。 ・ 医療安全管理委員会は病院全体の医療事故情報を一元化し、評価・分析することにより、再発防止のための改善策を図るものである。必要に応じて、各部門・部署のセーフティマネージャーならびに担当責任者を通じて、従業者に速やかに周知している。 ・ 当院において重大な問題、その他、委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査および分析、患者への対応状況の確認を行っている。 ・ 分析結果を活用した医療安全の確保を目的とした改善のための方策の立案、改善のための方策の実施状況の調査および必要に応じた当該方策の見直し、医療安全管理委員会報告システムを用いた実施状況の確認および確認結果の病院長ならびに医療安全管理責任者への速やかな報告を行っている。 ・ 改善策の実施状況が不十分な場合における従業者への研修および指導を行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>慶應義塾大学病院感染対策指針</p> <p>院内感染の防止、感染の制御、拡大防止のため、病院感染防止対策を全病院職員が把握して、感染源の速やかな特定、制圧、終息を図ることを本指針の目的としている。</p> <p>病院の理念に基づき、患者の皆様および病院職員に安全で快適な医療環境を提供するため、感染防止および感染制御の対策に取り組むための基本的な考え方。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院感染対策に関する基本的な考え方 2) 感染制御部の設置 3) 感染対策運営委員会および感染専門委員会の設置 4) 職員研修 5) 感染発生状況の報告 6) 感染発生時の対応 7) 患者への情報提供と説明 8) 病院における感染対策の推進 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 18 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染対策運営委員会 <ul style="list-style-type: none"> 開催：月1回（年12回） 役割：病院感染に関する報告事項を受けて、病院感染対策にかかわる具体的施策等を審議し、感染制御部（ICT）に助言を行う。 構成員：病院長、看護部長、薬剤部長、臨床検査科診療科部長、事務局長、輸血・細胞療法センター長、食養管理室長、臨床検査技術室長、中央滅菌医療資材室長、ICTメンバーなど（25名） <p>主な報告内容は、薬剤耐性菌・血液培養陽性などの微生物検査結果の動向、病院内で発生している感染症の発生状況、抗菌薬など感染症治療薬の使用状況と適正使用に関する内容など。</p> <p>主な審議検討事項は、発生調査や感染対策の実施や内容について決定する。結果を受け、内容の評価を行う。</p> <p>例：インフルエンザ、RSウイルス感染症、薬剤耐性菌複数発生などの際に、ICTからの情報をもとに患者隔離、当該病棟入院中の他患者への対応、新入院の制限実施、終息の決定。</p> 2) 感染専門委員会 <ul style="list-style-type: none"> 開催：隔月（年6回）適宜、臨時開催 役割：感染制御部（ICT）が策定し、感染対策運営委員会が承認した感染防止に関わる施策等を、病院内のすべての部署に周知徹底し、迅速かつ確実に対策を実施する。 各委員は、診療科内・部門内の教職員などで、感染症が発生した場合、情報収集や適切な初期対策を実施して、ICTに通報し、ICTと連携して対応に努める。 	

構成員：全診療科、全部門・全部署の代表者53名

主な報告・周知内容は、薬剤耐性菌・血液培養陽性などの微生物検査結果の動向、病院内で発生している感染症の発生状況と感染対策、抗菌薬など感染症治療薬の使用状況と適正な使用方法、各部門・部署での遵守率調査結果、結核の早期発見、血液曝露発生状況、院内感染対策教育の推進など。

例：インフルエンザ、RSウイルス感染症、疑いを含む結核、薬剤耐性菌などの発生時に、ICTのリーダーシップのもと現場対応に協力する。診療科・部門内で自らが主体的に取組み、主治医らへの指導、患者への説明、それぞれの情報の取りまとめなどを実施する。

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況

年 6 回

・ 研修の内容（すべて）：

全教職員に院内での感染・感染症発生状況、感染対策の基本的な考え方と具体的な方策を周知徹底し、意識向上を目標に感染対策に関する研修を実施し、出席状況を管理する。全教職員は必須研修（eラーニングのみ）を含む合計3回以上を必ず受講する。手指衛生や、適切な防護具着用、結核用N95マスクフィットテストなどは対象別に実施している。

2018年度実施状況

時期	対象	主な内容
6月	全教職員 (今年度必須講習会)	1. 感染対策の原則 2. 感染対策の実際 (安全の項目省略)
7月	全教職員 (今年度必須講習会)	1. 職業感染対策 2. 抗菌薬適正使用とAST活動 3. 2017年度発生状況 (安全の項目省略)
9月	全教職員	教職員が最低限知っておくべき麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜの知識
11月	全教職員	院内で発生している薬剤耐性菌と院内で取り組んだ手指衛生に関する報告 1. 薬剤耐性菌って何？感染症をおこすの？ 2. 当院の耐性菌の複数発生状況 3. 手指衛生強化月間の報告と患者満足度調査結果
12月	全教職員 (主に看護系職員)	新病院棟開設後のスタンダードプリコーションの現状と課題

対象者は、3,091名で1人平均3.7回受講した（eラーニング含む）。3月末までに対象者全員が2回以上受講した。

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染制御部（ICT）が中心となり、下記内容を実施している。

1) 各種サーベイランス

- 血液培養
- 薬剤耐性菌・抗酸菌・アスペルギルスなど微生物別
- ICUサーベイランス、HCUサーベイランス、NICUサーベイランス
- BSI/UTI/VAPなどターゲット別サーベイランス
- 一般・消化器外科SSIサーベイランス
- 針刺し血液曝露
- 手指衛生遵守率調査・防護具着用遵守率調査、使用量調査
- インフルエンザ、感染性胃腸炎など教職員感染症発生状況

2) 各種ラウンド

- 微生物データにもとづく薬剤耐性菌・血液培養ラウンド 全270回／1,291件
ラウンド目的詳細内訳は、血液培養陽性例481件・薬剤耐性菌など399件、血液培養以外の検体の微生物検査報告411件であり、毎日実施し、個々の患者の診療に役立てるようにしている。
- 許可制・届出制特定抗菌薬ラウンド（使用状況把握および介入）全221回／2,023件
毎日実施。届出の確認、使用理由・適正などを確認。必要があれば量と種類について担当医と相談。
- 感染対策担当者、施設・清掃担当者の協働による施設環境ラウンド 全35回延べ59部署
感染対策をすすめるうえで設備的な問題はないか、清掃が行き届いているか、現場での対策が実施できているかなどをチェックする。現場へのフィードバックを行い、その後の改善状況を把握する。各委員会へ報告し改善に努める。
- デバイス 全282回
CVカテーテル、尿道留置カテーテル、その他の医療器具や患者環境など周辺を適宜確認する。
- 網羅的ラウンド 24クール
手指消毒薬の配置、期限、トイレ、作業スペース、作業室、準備室などが仕様書どおりに運用され、感染対策に破綻がないかなど目的を限定し、短時間ですべての病棟を毎週ラウンドすることで、全体の傾向や変化を把握し改善にいかすことを目的に実施。5日で全病棟をラウンドする。
- ターゲットラウンド 7回
短期的に解決をはかりたい場合に、内容あるいは対象部署を限定してラウンドする。

3) 院内周知・教育

- 感染対策マニュアル作成および改訂
- 教職員ポケットハンドブック作成および改訂（平成31年4月最終改訂）
- ICTニュースと電子カルテCLIPシステムによる情報提供
- 感染対策講習会と内容別・対象別講習会等の企画・実施

4) 周知確認

教職員が感染対策の内容や最新情報について把握しているか、具体的な感染対策を実施しているかを確認する内容のe-ラーニングによる周知テストを年3回実施している。

5) 感染症診療と感染対策に関するコンサルテーション

医師、看護師、コメディカルなどからの個別の相談に応じる。

6) 職業感染対策

教職員健康管理部門である保健管理センターとの協働により下記を実施している。

- 針刺し血液曝露
発生時の24時間対応、発生後フォロー、針刺し低減のための対策
- 結核
 - ・新入職者のIGRA (Interferon-Gamma Release Assays) 検査
 - ・ハイリスク医療従事者のIGRA検査年1回
 - ・医療従事者の最低年1回胸部X線必須
- 流行性ウイルス疾患
 - ・年1回インフルエンザワクチン接種機会の提供 (平成30年10月24, 25, 26, 30, 31日 計5日間)
 - ・免疫未獲得職員へのワクチン接種および接種証明書類提出の個別依頼

小児病棟の訪問学級教員に対しては、感染制御部が新宿区養護学校と協力し、教員による病院内への感染症持込防止のための管理を行っている。

7) 地域連携

下記他施設との連携により自施設を評価し、それに基づき感染対策の改善に努めた。

- 私立医科大学1校との年1回の相互ラウンド
(平成30年10月29日 慶應義塾大学病院受入、11月29日 昭和大学病院訪問)
- 国立がん研究センター中央病院による年1回視察と意見交換 (平成30年9月3日実施)
- 感染防止対策加算2取得施設との年4回の合同カンファレンス
(平成30年4月9日、7月30日、10月18日、平成31年1月28日実施)
- 新宿区立四谷第六小学校への手指衛生指導 (平成30年10月15日実施/対象1年生、6年生)

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2018年4月2日から10日 研修医・専修医オーダーリングトレーニング（専修医、研修医124名） 【研修内容】基本的な処方を入力操作を習得する。 • 2018年4月6日 研修医オリエンテーション（研修医32名） 【研修内容】薬剤に関する医療安全研修：医薬品の安全使用に係わる業務手順書について、重点管理ハイリスク薬、未承認新規医薬品等の取扱いについて • 2018年4月16日から20日 研修医注射点滴実習「処方入力時の注意と点滴調製の手技」（研修医60名） 【研修内容】注射薬を無菌的に調製する方法を実際の薬を用いて実習する。凍結乾燥品のバイアル溶解し、補液へ混合しインスリンを加える。配合変化を体験してその回避方法を学ぶ。 • 2018年6月配信 医療安全研修 e-ラーニング必須研修2（教職員全員） 【研修内容】医薬品の安全管理について、医薬品の安全使用に係わる業務手順書について、重点管理ハイリスク薬、未承認新規医薬品等の取扱いについて • 2018年6月27日 医療安全看護対策推進講習会（講習会参加者79名） 【研修内容】ワーファリン過剰内服の事例検討、内服薬の患者自己管理による事故と防止策 • 2018年12月4日に2回 重点管理ハイリスク薬の運用・管理 【研修内容】当院の重点管理ハイリスク薬の注意点、今までのインシデント事例 • 2019年2月20日 看護師注射点滴調製研修（講習会参加者：82名） 【研修内容】薬剤の基礎知識と管理を含めた講義と演習：静脈注射を実施するうえで薬剤の基礎知識と管理について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」作成マニュアル（平成30年改訂版）に沿って、医薬品の購入管理、調剤室の薬品管理、病棟・各部門への薬剤の供給、入院・外来患者への使用、情報収集・管理・提供、院内各部門における医薬品の取り扱いを定めている。</p>	

年に1回手順書の内容をチェックリストとして作成し、病棟外来看護師、医師、薬剤師、診療放射線技師、ME等の各診療科・部門のセーフティマネージャーに、手順書に基づいて業務が実施されているか確認を依頼している。その後、病棟・外来のラウンドを行い、チェックリストでできていない部分や手順書で変更になっている部分を中心に確認している。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (・無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :

平成29年度から未承認・適応外使用を各診療科に申請依頼を開始した。平成30年度末において、未承認等新規医薬品・医療機器評価委員会で審議された未承認薬は26薬剤 (すべて院内製剤)、適応外・禁忌59薬剤である。未承認薬では大動脈瘤の不安定性を評価するPET検査で使用する検査薬¹⁸F-NaF、適応外・禁忌ではサンドスタチン、サンディミュン、ロイケリン、アザチオプリンなどが使用されている。

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- ・ ほぼ全ての内外用薬および注射薬にバーコードが印刷され、バーコードリーダーによる認識ができる状態となっていることから、調剤時およびピッキング時にはバーコードをバーコードリーダーで読み込み、正しい薬剤を準備できる体制を整えている。
- ・ 個人別の注射薬の払出はすべて一施用単位で払出を行うことができている。
- ・ 腎機能、肝機能障害のある患者に対し、投与制限のある薬剤については処方箋にその投与制限の内容を印字する仕組みを取り入れている。なお、直近の腎機能、肝機能の血液データも処方箋には表示されている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 145 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定医療機器（人工呼吸器、人工心肺装置及び補助循環装置、除細動器、血液浄化装置閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置）に関する研修：23回 ・ 一般医療機器に関する研修：6回 ・ 新規医療機器に関する研修：116回 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床工学技士による点検 除細動器、一部人工呼吸器 ・ 業者委託による保守点検 人工呼吸器、人工心肺装置及び補助循環装置、血液浄化装置 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、閉鎖式保育器 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> ・ 適応外 ゴア バイアバーンステントグラフト 申請後実施なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 誤接続防止コネクターの導入のための取り組み ・ バイポーラ電気メスの運用マニュアルの作成 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副病院長1名を医療安全管理責任者に配置した。医療安全管理責任者は医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者 (薬剤師) 及び医療機器安全管理責任者 (臨床工学技士) を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の整理 (把握) <p>毎日 PMDA、厚生労働省、FDA などの web サイトを確認し、新規情報 (安全性情報や学術情報など) を把握している。メディアナビから送られてくる情報を併せて薬品添付文書、インタビューフォーム、製品情報概要、使用上の注意の解説、各種文献、問い合わせの回答などの情報を医薬品別ファイルにファイリングしている (令和元年 11 月より電子化の予定)。製薬会社より添付文書などの改訂情報が得られた場合には、医薬品別ファイル内の使用を最新版へ差し替える。各種情報サービスにより得られた添付文書改訂情報に基づき、最新の添付文書及び改訂案内が製薬会社より届いていないものは適宜リストアップし、製薬会社に請求する。添付文書、インタビューフォームなどの改訂情報について、年 1 回各製薬会社に確認している。</p> ・ 情報の周知 <p>「緊急安全性情報」や「安全性速報」が発出された場合、院内の取り決めのフローにて各職種へフィードバックしている (下図)。「医薬品・医療機器安全性情報」が発出された場合は、各診療科の薬事委員を通じて各診療科へ電子メールにて情報を配信し、同時に院内の電子掲示板、電子カルテへ掲載し周知する。必要に応じて別途お知らせを作成し配布する。特に周知が必要な情報については、医療安全対策センターが使用しているシステムを活用して院内電子掲示板から周知を行う (院内で閲覧したスタッフ人数が把握できるほか、閲覧していないスタッフに閲覧を促すことも可能)。「医薬品安全対策情報 (DSU)」、「使用上の注意の改訂指示」が発出された場合、当院取扱い品目に限り商品名を併記し、サマリーを追記した上で薬事委員、薬剤部員へメール送信をしている。こちらも必要に応じて院内の電子掲示板、電子カルテへ掲載し周知する。必要に応じて別途お知らせを作成し配布する。</p> <p>特に安全面で影響が大きいと考えられる事例では場合により患者を検索し薬事委員や専門医に連絡をとり対策を検討し、薬剤部員への情報共有を行う。</p> 	

緊急安全性情報・安全性速報発出時の対応

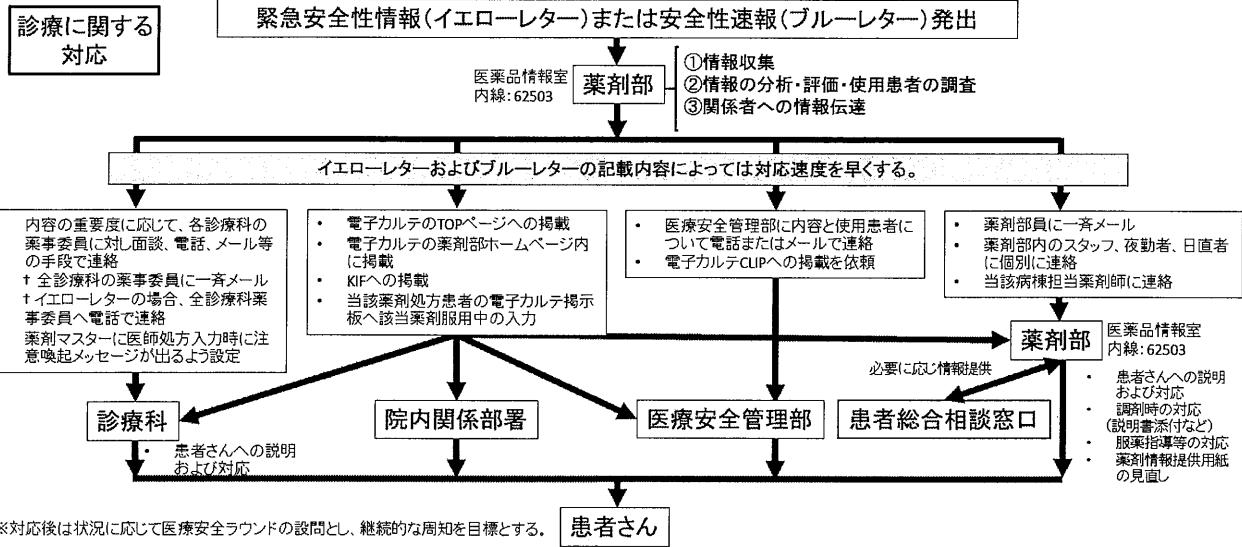
2019/8/6

<緊急安全性情報>

緊急に安全対策上の措置をとる必要があると判断された場合、厚生労働省からの配布指示に基づき、製薬企業が作成する情報

<安全性速報>

緊急安全性情報に準じ、一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な安全対策措置をとる必要があると判断された場合に、厚生労働省からの配布指示に基づき、製薬企業が作成する情報



※対応後は状況に応じて医療安全ラウンドの設問とし、継続的な周知を目標とする。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

診療科部長より申請された、「未承認」「適応外」「禁忌」に該当する医薬品に関して、医療安全管理部と連携して申請内容を確認し、未承認医薬品、あるいは協議の結果必要と認めた「適応外」「禁忌」医薬品について、未承認等新規医薬品・医療機器評価委員会へ諮問する。医薬品の適応外使用、禁忌医薬品の使用状況を処方監査等により把握し、使用の必要性等を確認し、必要な指導等を行う。

・担当者の指名の有無 (有 ・ 無)

・担当者の所属・職種：

- (所属：薬学部・薬剤師， 職種：薬剤師) (所属：薬剤部， 職種：薬剤師)
- (所属：薬剤部， 職種：薬剤師) (所属：薬剤部， 職種：薬剤師)
- (所属：薬剤部， 職種：薬剤師)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有 ・ 無

- ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有 ・ 無)
 - ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
- 診療記録管理監査委員会内規に基づき監査を実施。結果は当該診療科および診療記録管理監査委員会、病院診療会議、病院運営会議にフィードバックしている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>「診療録の記載に関するガイドライン」を作成。副病院長を委員長とする診療記録管理監査委員会が、「診療記録監査実施要項」を基に多職種による監査を行っている。結果は当該診療科および診療記録管理監査委員会、病院診療会議、病院運営会議にフィードバックしている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（11）名、専任（2）名、兼任（8）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（4）名</p> <p>うち薬剤師：専従（2）名、専任（1）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理委員会で用いられる資料および議事録の作成・保存、その他、医療安全管理委員会の庶務に関すること 2. 事故等に関する診療録やその他診療記録の確認および指導 3. 事故等発生時の対応状況の確認および当該部門に対する指導 4. 必要に応じ患者又は家族への説明 5. 事故等の原因究明のための調査および分析 6. 医療に係る安全確保や業務改善の方策の立案および実施・評価ならびに教職員への周知 7. 医療安全に係る連絡調整に関すること 8. 医療安全管理委員会での決議内容を教職員に周知 9. 医療安全に関する苦情や相談への対応と方策の立案および実施 10. 教職員の医療安全に関する周知活動とその確認 11. 医療安全に資する診療内容等についてのモニタリング 12. 他の特定機能病院間相互のピアレビューの実施 13. 死亡、死産報告に関すること 14. その他医療安全対策に関すること <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 11 件）、及び許可件数（ 10 件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療</p>	

技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

高難度新規医療技術評価委員会の開催
実施報告書の提出

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（51件）、及び許可件数（45件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等（医薬品・医療機器）を用いた医療を提供する場合に、既存の医薬品等を使用する事と比較した場合の優位性、当該未承認新規医薬品等の使用条件等を記載した申請書に基づき、未承認等評価委員会でその使用の適否について検討し、医療安全管理部長が決定する。導入後は、定期的に適正な手続きに基づき提供されていたか診療録等により確認する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 389件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 263件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容：

死亡・死産症例は、医療安全管理部が管理日誌・周産期システム等により、全死亡・死産事例を把握し、報告書及びカンファレンス入力状況を医療安全管理委員会で報告している。

電子カルテ「CLIP インシデント報告分析システム」の報告書から問題点を把握し、事実確認を行っている。

また、カルテやヒアリング等で全体を把握し、根本原因を分析、安全確保のための方策を立案し、周知を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ （病院名：国立がん研究センター中央病院／昭和大学病院）
・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ （病院名：国立がん研究センター中央病院／昭和大学病院）
・無）

・技術的助言の実施状況

・国立がん研究センター中央病院

- ① 手術時のマーキングは現在バンドのみで運用されているが、手術部位かそのすぐ側にマーキングをするのが望ましい。
⇒WHO等のガイドラインに準じた運用への変更を検討する。
- ② 暴力行為のあった患者のカルテ上の表示について、基準や期間を決めて行うのが望ましい。
⇒暴力行為等のカルテ表示は、運用の取決めから時間が経過しているため、運用方法を再検討していく。
- ③ 医療安全管理者とメディエーターは異なる職員が行うのが望ましい。
⇒メディエーター育成等を含め今後の検討課題としていく。
- ④ 中途採用者、復帰者研修の実施を規制当局は強く求めているので早期に対応することが望ましい。
⇒早急に対応を検討する。
- ⑤ 注射調製室の調製台がエアコンの吹き出し口の下にあり、移動が望ましい。
⇒関連部署に可能な範囲で処置台の場所を検討する要望を提出する。定期清掃を継続して埃等が落下しない環境を維持する事にも同時に実施していく。
- ⑥ 医療機器が新規購入される際、医療安全管理部メンバーが確認するのが望ましい。
⇒医療機器購入に際して、医療安全管理部所属の医療機器安全管理責任者が確認できるような体制構築の検討を開始していく。
- ⑦ 高難度新規医療技術評価委員会に、医療安全管理部門の者（医療安全管理責任者等）を配置することが望ましい。
⇒高難度新規医療技術評価委員会の委員長が医療安全管理部門の副部長であり、且つ医療安全管理部所属の医療機器安全管理責任者も高難度新規医療技術評価委員を兼務している。

・昭和大学病院

- ① 多職種を交えたM&Mカンファレンスについて、企画開催されとなおよい。
⇒病院内の死亡事例に関しては、現時点で全例、診療科内でカンファレンスを実施している。そのカンファレンスには医師以外の職種が加わっていることもあるが、その頻度は高くないため、今後、死亡カンファレンスに医師以外の職種も交えて開催することを推奨していく方向で検討していく。
- ② 高難度新規医療技術承認後の実施状況報告についてのモニタリング方法が十分に確立されていないということから整備されることを期待する。
⇒高難度新規医療技術では内規においても実施報告書の提出を求めているが、速やかな提出が徹底されていないのが現状である。今後は「症例ごとの実施報告書」の可及的速やかな提出に向けて、対策を継続的に検討していく。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者さんやそのご家族が気軽に相談できるように「総合相談窓口」を正面玄関横に配置し、窓口対応を午前8時40分から午後4時30分で行っている（事前予約なし）。また、相談方法は他にも、電話相談（窓口対応と同じ時間帯）、院内に28箇所を設置されたご意見箱への投書、24時間受付のメール相談、など患者さんの状況によって選んでいただける多様な手段がある。

相談窓口担当者には、看護師、MSW、事務員を専従で配置し、患者さんの声に傾聴すること、必要に応じて医療安全管理部と連携を取ること、迅速かつ適切な対応すること、などを心がけている。対応した相談内容は全例報告書を作成し、電子カルテ内の報告システム（CLIP）で情報管理をおこなうことで、医療安全管理部とは相談内容の共有もすすめている。

医療安全管理部のスタッフも加わったカンファレンスも定期的を実施し、医療安全管理委員会においては、患者総合相談部より定例の月例報告と、必要に応じた事例報告も行っているなど、相談内容の検討と情報共有を推し進め、医療安全機能の向上に努めている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

全教職員対象の必須研修として、インフォームド・コンセント、高難度・未承認、公益通報窓口に関する事項等を含む内容を e-ラーニングで実施している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・ 管理者：
平成 30 年度特定機能病院管理者研修会（継続・1 日間）
- ・ 医療安全管理責任者：
平成 30 年度特定機能病院管理者研修（継続・1 日間）
- ・ 医薬品安全管理責任者：
平成 30 年度特定機能病院管理者研修（2 日間）
医薬品安全管理研修会 2018 年秋季
第 5 回特定機能病院管理者研修会
- ・ 医療機器安全管理責任者：
医療機器安全管理責任者研修会
平成 30 年度特定機能病院管理者研修（継続・1 日間）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全の確保のために必要な資質および能力として、医療安全管理業務の経験を有し、患者安全を第一に考える姿勢および指導力を有する者 2. 当院を管理運営する上で必要な資質および能力を有し、当院内外での組織管理経験を有する者 3. 高度の医療を提供すること、高度の医療技術の開発および評価を行うこと、高度の医療に関する研修を行わせることなど、特定機能病院に求められる役割を十分理解し、その発展にリーダーシップを発揮できる者 4. 関係法令等を十分理解し、法令を遵守した病院運営を担える者 5. 安心・安全な医療の提供と、安定的な収益確保とのバランスを考えた健全で全体最適な病院運営を担える者 6. 次代の病院執行部の育成を担える者 7. 病院の社会的使命を十分理解し、その発展に努めることができる者 8. 病院開設者である理事長や常任理事会、行政その他関係機関との間で信頼関係を構築し、適切な連携を図れる者 9. 慶應義塾の専任教職員として、病院の管理者としての業務に専念できる者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無) ・ 公表の方法 病院ウェブサイトにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無		
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営の方針 ・ 中期計画 ・ 予算案および決算に関する事項 ・ 各委員会等からの重要な提案事項 ・ 内規等の制定および改廃に関する事項 ・ 病院診療会議における周知・報告事項 ・ その他、病院長が必要と判断した事項 <p>・ 審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>毎月1回、合議体（病院運営会議）の協議内容を周知する病院診療会議にて、全部門長への周知を行っている。また、あわせて特に重要な周知事項を全職員へメールにて配布し、各部署内で周知がなされたことを、部門長から病院長へ報告することとしている。</p> <p>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ）</p> <p>・ 公表の方法</p> <p>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
北川 雄光	○	医師	病院長
大家 基嗣		医師	副病院長
佐谷 秀行		医師	副病院長
陣崎 雅弘		医師	副病院長
長谷川 奉延		医師	副病院長 医療安全管理部長 診療記録監査委員長 インフォームド・コンセント委員長
松本 守雄		医師	副病院長 手術・血管造影センター長
三村 將		医師	副病院長 患者総合相談部長
福永 興壺		医師	病院長補佐
藤澤 大介		医師	病院長補佐 医療安全管理部専従 医師

松田 美紀子		事務員	病院事務局長
加藤 恵里子		看護師	看護部長
天谷 雅行		医師	医学部長
金井 隆典		医師	医学部長補佐
長谷川 直樹		医師	感染制御部長
村松 博		薬剤師	医薬品安全管理責任者
平林 則行		臨床工学技士	医療機器安全管理責任者
村田 満		医師	COI 委員長
吉村 公雄		医師	医療政策・管理学専任講師
古田 正		事務員	病院事務局次長（総務担当）
三保谷 照和		事務員	病院事務局次長（医事・情報担当）
飯田 英貴		事務員	病院事務局次長（管財・経営企画担当）
岩田 光晴		事務員	病院事務局次長（渉外担当）
市川 二葉		事務員	病院事務局次長（医療安全担当）
豊福 壮介		事務員	病院事務局次長代理（臨床研究担当）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
 - ・ 病院長は、病院管理者として大学病院を代表し、病院業務全般を統括する。
 - ・ 病院長は、大学病院で行われる診療、教育、研究およびそれらに関する諸活動について、その実施を許可し、停止を決定する。また、実施状況について報告を求め、是正改善等を命ずることができる。
 - ・ 各診療科および診療部門の長は、病院長が指名し、塾長が任命する。
 - ・ 病院長は必要な場合にいつでも診療科部長等の権限を停止し、代行者を指名することができる。
 - ・ 診療科部長等の解任は、病院長の上申に基づき塾長が決定する。後任者が任命されるまでの間、病院長は代行者を指名することができる。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

職名：副病院長

役割：病院長を補佐し、病院長が不在の場合はその職務を代行する。

職名：病院長補佐

役割：病院長の定める職務に基づき、病院長を補佐する。

職名：病院経営企画室

役割：病院内外の情報を戦略的・集中的に管理し、大学病院の経營業務に関連する企画、立案、事業計画、予算、調整に係る業務を行う。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

医師：病院長に求められる資質のひとつである医療安全管理業務の経験を積むため、副病院長の数名が医療安全管理委員会に参画している他、病院執行部等の役職経験を通じてOJTによる育成を図っている。

職員：大学院健康マネジメント研究科に設置されている病院経営人材の育成を目的としたプログラムを、数名の病院職員が受講している（前年度3名）。また、若手・中堅職員を対象とした職種横断型のコメディカル研修を実施し、病院全体の運営課題に取り組んでいる。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院長、医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器感染管理責任者等から報告を求め、必要に応じて自ら確認する。 2. 必要に応じ、塾長または病院長に対し、医療に係る感染安全管理については是正措置を講じるよう意見を表明する。 3. 1及び2に掲げる監査結果を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 公表の方法：病院ウェブサイトに掲載 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山口 徹	虎ノ門病院名誉 院長	○	虎ノ門病院の元病院長 であり、病院管理者と して医療安全に携わ り、幅広い知識と豊富 な実務経験を有する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
市村 尚子	公益社団法人 日本看護協会 神戸研修セン ター長		日本看護協会神戸研修 センター長であり、看 護管理者として医療安 全について十分な知識 と実務経験を有する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
中谷 比呂樹	慶應義塾大学 グローバルリサ ーチインスティ テュート 特任教授		厚生労働省医系技官と して医療行政に従事 し、WHO では感染症対策 部門を牽引した実務経 験を有する	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	1
宮沢 忠彦	関谷・宗像法律 事務所 弁護士		長年法曹界に身をお き、法律についての豊 富な専門知識と実務経 験を有する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1

山口 育子	認定 NPO 法人さ さえあい医療人 権センターCOM 理事長 他		医療を受ける者の立場 を代表する患者支援団 体の理事長として、医 療安全についての知識 を有する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
-------	--	--	--	--	---

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

慶應義塾長（開設者）の下に設置されている業務監査室の規程を改正し、体制を整備した。
法人の監事による監査および官公庁の立入検査等に立ち会っている。

- ・ 専門部署の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院担当常任理事を委員長とする会議体を設置。 ・ 病院がその社会的使命を果たし、経営の健全性を確保し、その維持・向上に取り組んでいることを確認するため、病院長による病院の管理・運営の状況について点検・監督等を行うことを目的とする。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：慶應義塾大学病院業務監督ボード			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
竹内 勤	慶應義塾 常任理事	○	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
貝沼 由久	ミネベアミツミ(株) 代表取締役会長兼社長執行役員		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
菊池 廣之	極東証券(株) 代表取締役会長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
小松本 悟	足利赤十字病院 院長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
山本 尚明	慶應義塾 塾監局長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 教職員用イントラ、教職員ポケットハンドブック、ミッションカードに記載、全教職員対象の必須研修において周知

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構「病院機能評価（3rdG:Ver.1.1・一般病院2） 認定期間：2017年11月10日～2022年11月9日	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ウェブサイト、冊子（総合案内、病院広報誌「すゝめ」）等により随時発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 慶應義塾大学病院規程において、より良い治療を患者に提供することを目的として、複数の診療科や部門の教職員が対等な立場で組織横断的に連携・協力してチーム医療を実施するにあたっての活動単位を「診療クラスター」と位置付け、活動している。	